川満　力　かわみつ つとむ　　（那覇地区漁協）

1936 年(昭和 11 年) 宮古島に生まれる。78 歳(2014 年時)。

6 歳に八重山に移住、17 歳(1953 年)から南方へ、海人草、貝殻採りへ。26 歳(1962 年)に、サンゴ船・福泉丸(船主大城清一 12 ﾄﾝ)に乗り、初めてサンゴ漁に関わる。以後豊岡丸(船主福本豊三郎ﾝ)の漁労長を経、1966 年琉球サンゴ組合の第 2 回ミッドウエイ沖に出漁する。沖縄のサンゴブームは 1960 年から始まった。氏はサンゴブーム最盛期 62 年からミッドウエイ出漁までの 5 年ほど従事してきたベテランである。氏にサンゴ網漁の仕組みから、当時のサンゴブーム状況とその盛衰、幾つかのエピソードを語ってもらった。

15 から海　素潜りで　ドンブリだと　50 ﾒｰﾀｰ潜る

僕は宮古の平良市字大浦で生まれた。6 歳には家族で八重山に移住した。貧乏育ちで、長男だから、15 歳には海の仕事、追い込みとか、潜りの仕事やっておった。17 から 24 までは、ずっと南方に、新南群島とか、プラタスとかに、貝殻や海人草採りで行っておったです。

・・以下は「5－3、電灯潜り関係　(前半)」の項に掲載

26 歳(1962 年)　福泉丸乗って　サンゴ漁　始める

24 歳(1960 年)に、女房を探したから、南方行きは辞めれと言われて、辞めた。

八重山で、夏はカツオ船のエサ採りとか、冬は一本釣り、底延縄とかしていた。底延縄は尖閣列島に行ってやったら、相当獲れましたよ。だけど船がオンボロだった。使えなくなったから辞めて、また八重山で、一本釣やっていた。八重山は魚が安かったから宮古に行ってやっていた。

サンゴ網を手に取って、その仕組みを説明する福泉丸船主大城清二さん。

そしたら 26 歳(1962 年)の時かなぁ、大城清二さんに遇って、サンゴ船に乗ったわけ。大城さんは、丁度宮古に来て、サンゴ採る準備しておった。与那原の人だから初対面で、福泉丸(12,3 ﾄﾝ)に乗ってくれんかと言われた。私もあの時はサンゴはどんなものか分らない、契約の収入がちょっと大きかったから、いいですよ、乗りましょうと、乗ったですよ。船長は池間の若いのを頼んで、乗組員 11 名位だった。あの時分は、宮古のサンゴ船は久松辺りの半農半漁の人を給料で雇っているから、あれなんか海は分らん、道具の準備もできんから、私が行って、それやって宮古の宝山にサンゴ採りに行ったわけです。

テレビにサンゴがよく映るさぁ。魚がいっぱい周りを泳いでいて、赤とか白とかのきれ

いなサンゴがある。あのサンゴではない。あれはきれいだからと石から起して採ってきて、飾っておくと、1 週間位では乾燥するよ。で、乾燥したら、枝も折れて、パラパラーして崩れてすぐダメなる。あれは浅い所にある軟らかいサンゴ(造礁サンゴ、六放サンゴ亜綱に属する)で、20,30 ﾒｰﾀｰには沢山あります。ムルというけど。ウチらが採るのはもっと深い所のもので、100 ﾒｰﾀｰから 200 ﾒｰﾀｰ位の深さにあるサンゴです。これだと石より硬い。それに磨いたら宝石みたいにきれいになる。それで宝石サンゴ(八放サンゴ亜綱)ともいう。

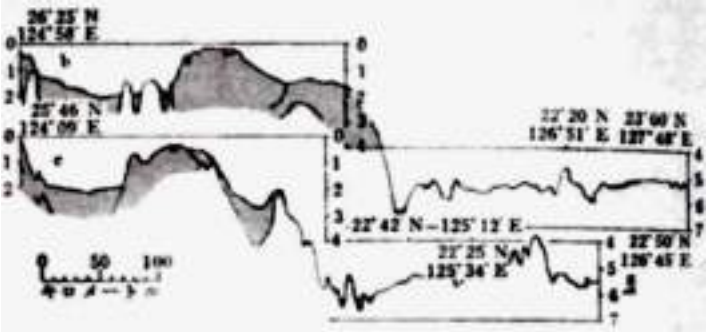
色は桃とか、ピンク、それに赤とか、白とかがあります。

して、宝山行ったら、赤サンゴは安いから、採らなかったが、桃とか、ピンクを採った。採れる深さは、場所によって違いますけど、赤サンゴは水深が大体 80 ﾒｰﾀｰから 100 ﾒｰﾀｰ。桃とか、ピンクは 180 ﾒｰﾀｰから 250 ﾒｰﾀｰ位です。

サンゴブーム　宝山ソネで　80 隻あまり操業

大城さんの福泉丸に乗ったのは。丁度サンゴーブームの頃でした。宮古から出て、宝山向けて、船 2 時間位走らすと、明かりが見えてきた。ずらーとして、那覇の街の電気より明るく見えたんですよ。皆サンゴ船です、80 隻位はいましたかねぇ。

宮古の池間、佐良浜から 70 隻位、沖縄から 10 隻位来てましたねぇ。皆が皆、サンゴ許可をとってなかった。宮古の船は殆どカツオ船、夏はカツオ船上がりで、25 ﾄﾝから 30 ﾄﾝ位で船員は 14､5 名　沖縄から行っている船は 15,6 ﾄﾝ位、船員は 7､8 名か 10 名位で殆ど与那国の人のサンゴ船でしたよ。で、行ったら船が沢山いるから、昼だったら、割り込んで行くけど、夜は危ないから度胸も必要だった(笑い)。それに、潮の流れ計算せんで、合い中に割り込んで行ったら、向こうの船の網と縺れたら迷惑するから、これ考えて網入れましたよ。宝山はソネが大きいです。サンゴゾネもあそこだから、あっちこっちにサンゴはありはするけど、沢山採れる所と採れない所がある。だから船もあっちこっちにたむろしてました。



宝山ソネ海底地形図。国内有数のサンゴ、一本釣漁場であり 150～2500 ｷﾛに跨る広大なソネである。(「エカフェ報告」より)

大九に？　いや､あそこはあまり行かなかった。もっぱら宝山でした。サンゴはよう採れましたよ。最初の 2 年位は相当採ったんです。サンゴ船は夏だけしかやりません。宝山は 5 月から潮引く、冬は全然潮引かないから潮の流れが悪い。潮の流れが悪いと、サンゴがあっても掛からない。だから冬はやらない。潮の流れは 5 月頃から速くなるから 5 月から 8 月、大体 9 月中頃まではやりよった。

1 航海ですか、大体 8 日から 10 日間位、これだけ分の食料を積んで行きますから、10 日

以上はあんまりやらなかった。船員は大体 11 名位、少ない時は 8 名位です。宮古のサンゴ船の場合は親方も乗らんし、大体が雇い船長 1 人と船員だけで、漁労長もいない。だから船員なんかやりたい放題、採ったサンゴを失敬もするし(笑い)。

福泉丸の場合も、親方の清二さんは乗らん。代わりに兄さんの清次郎さんが一緒に乗ってました。漁労長で監視役ですよ。あれだけの船員だから少しずつサンゴ盗られても大変でしょう。だから、箱作って、それにサンゴ入れて鍵式にしたわけです（笑い)。

サンゴ網　石に輪作り　網結んで引っ張る

サンゴは、サンゴ網というのを使って採ります。サンゴは 100 ﾒｰﾀｰから 200 ﾒｰﾀｰの深海に生えているから、網も底に沈めんといかん。石をオモリして。網を石に縛って、底に沈めて、船は潮に流しながら、網を底から曳きながら、これにサンゴを引っ掛けて採るわけですよ。

(サンゴ網図を指して)　オモリの石は、5,6 ｷﾛ位の丸い石。

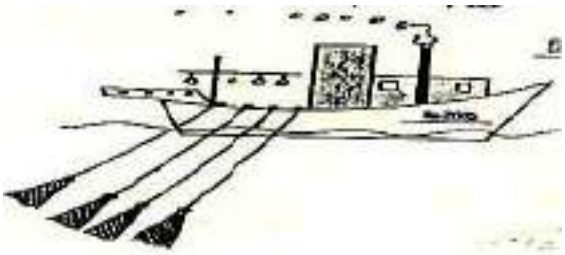
これに針金で輪を作って、網を 4 つ括る。サンゴ網は長さ 1 ﾒｰﾀｰ 50 位、折りたたんでワッカーから通して石に縛ってある。幅は小さく見えるけど、広げると 4 ﾒｰﾀｰ位はあります。1 つの石に 4 つ網を縛って、石の先にワッカー付けて、これにロープを通して、このロープを船から曳いて、網流すわけですよ。石に縛った網 4 つはくっ付いたまま流れるから、そしたら、この幅にあるサンゴが、網の目に掛かって、そのまま揚がってくるわけです。

上：サンゴ網の丸石、オモリの役目、重さ 5.6 ｷﾛの丸石。
下：ロープ 1 つに石 2 個縛り、石 1 個に 4 つ網付けて流す。

ウチなんかは、ロープ 1 つに、サンゴ網の石を 2 つ付けた。石 1 つだと網は 4 つ、2 つだったら 8 つになるから、掛かる率はいいですよ。で、サンゴ網流す時は、大体ロープは、2 本まとめて入れて、引っ張るから、一遍に網を 16 入れて曳くことになる。ロープ 1 本だと、石 2 つ、網 8 つだから、ロープ 2 本だと、16 になるから。サンゴ網は 2 種類ありました。ナイロンと麻の網が、ナイロンは台湾から、麻は内地から来ました。ナイロンは台湾の何かの網の使い残し、麻の網は新品で、最初からサンゴ網だから高い。麻網、ナイロンだけだったら、皆束になって掛かる率が悪いし、麻の場合は、ナイロンみたいには引っ付かん。だから、こっちナイロン、こっちは麻と交互に縛って使いよった。

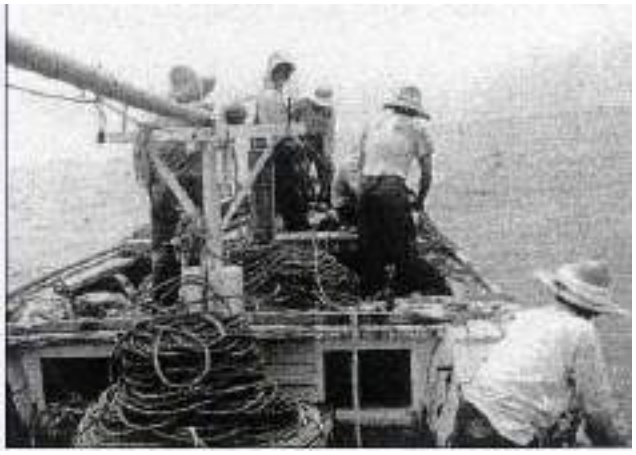
船　エンジン停めて　潮の流れに乗って　網流す

サンゴ船は、船員１人でロープ２本を受け持つ。ロープ１本に石２つを括るから、石は全部４つ使う。あと予備の石とかが傍に置いてあったりして。で、石１つに網４つ縛ってあるから、船員１人がサンゴ網８つ入れるわけ。福泉丸の場合は、船員 11 名乗って、８名がサンゴ網入れるから、８名×８つで 64、一遍に、64 のサンゴ網を入れるんです。サンゴ船は大体が皆この位です。そして、サンゴ網入れたら、船はエンジンかけたまま、ゴーウェイもしないで、船は潮に流してまま、サンゴ網を曳いて行くわけですよ。



船員１人でロープ１本入れる。ロープ１本に石２個、サンゴ網８つ縛る。４本だと 4×8 で、網 32 となる。

網を揚げるタイミングですか、これは漁労長の判断で、網の引っ張り具合とか、距離とか、時間とか見て、網を揚げます。船が流れている間に、草とかゴミ、石とか、サンゴとか、色んなものか掛かってきますよ。ロープ１本に、全部で網は８つあるから、相当重量あります。それに水深も 100 ﾒｰﾀｰから 200 ﾒｰﾀｰもあるから、網はラインホーラーで揚げます。揚げて、甲板に広げて、サンゴが掛かっておれば、外して採ります。



サンゴ漁光景、サンゴ船は夜昼とない、夜も点灯して仕事する。万事潮の流れ次第、潮見ながら、適宜網引く。

その時に草とか、石も全部外して、網きれいにせんといかん。これ外すのに時間掛かるから、傍に予備の網、石を置いてあるから、それを繋いで下ろして、流れる間に、前の網から、草やサンゴ、ゴミとかを外すわけです。

また船がこう流れていると、たまにはロープとか、網とかが、底の岩に掛かる時があります。これが 1,2 本掛かったら、もう船は流れない。流れんと、サンゴ掛からんわけだから、その時はエンジン掛けて、船バックさせて、これを引き起こす。バックして外せば、船はそのまま流れて行きます。

また、サンゴがあっても、潮の流れが悪かったら、船はあんまり流れないから、サンゴは全然掛からない。その時は皆寝かしますよ。責任者はずっと起きていて、潮の流れを見ていますから。潮の流れがよくなったら、皆を起こします。また夜寝ておっても、サンゴが掛かるいい潮だったら寝かさない。夜通しずっと起こして仕事させます。サンゴ網は、万事潮の流れ次第ですから（笑い）。

サンゴ揚がった情報　聞いて　漁場行く

サンゴだけは、サンゴ船が漁場を探してない。殆どが一本釣り船が、だからアカマチなんかがいる 200 ﾒｰﾀｰの所はサンゴが多いわけさぁ、皆一本釣りが漁場見つけている。

1959 年に、那覇地区の一本釣り船が宝山で、サンゴ揚げた。これが沖縄のサンゴブームの始まりです。それで、大城さんの福泉丸も、宝山に行ったわけ。で、行って、魚探で、水深と海底地形を見て、こっちにサンゴありそうだと思って、やってみたら、ある所もあれば、ない所もあるんですよ（笑い)。魚探では、サンゴがあるか分らん。ずっと 100 ﾒｰﾀｰから　240､250 位の海底を見ていて、影映っても、これサンゴかどうかは分からん。今は船の機械も進歩して、サンゴがあるのが分るか知らんが、あの時分はそれができない。

どこそこで採れた、どんなサンゴが、どの位採れた、そういう情報を聞いて、皆その漁場に行って、そこに網入れても、魚探でサンゴかどうか分らんですよ。深さと地形見て、あとは勘でやりよったです。殆ど桃サンゴ探していましたから、桃はどの位の深さかを調べて、地形見て、地形がパッと落ちる所もあれば、宝山の場合だと皆少しの凸凹ですよ。こうして落ちる所は、あそこは広いから、サンゴあるだろうと、もう勘で、自分の勘でやってました。それに、サンゴがあっても、潮の流れが悪かったら網に掛からない。1,2 回入れては分らないから、潮の加減見て、何回も網入れてみるわけです。運良くサンゴが掛かったら、万々歳です。目印のブイ持っていますから、そこにブイを放り込むわけです。

これは運がよければの話で、大体が 1 日中やっても掛からない場合が多い。

宝山も、最初はもう 2 年位、どこに行っても採れよったです。サンゴ船が 80 隻位来て採るから、段々少なくなってきましたよ。宝山ソネは広いですから、サンゴある別の場所を探さんといかん。見つけるまでが大変だった。1 航海、2 航海ではなかなか探せませんよ。

サンゴ漁光景　左：目印のブイが入れてある。右：揚ったのは大きな桃サンゴ。(場所、日時不明)

サンゴ網　草とか　貝とか　色んな物　掛かる

サンゴ網揚げたら、色んな物が引っ掛ってきました。草とか、サンゴみたいなものが、だけどサンゴではないですよ。ウチなんかは海サボテンとか、ウミマーチ（海松）というけど、この位の骨のある草が、この長さ位で、これがもう針金みたいに硬いものが。これ多い所と少ない所があるが、尖閣列島はとくに多く掛かったですよ。あんなものが網にいっぱい掛かるから、サンゴあっても掛からんわけです。網をもうこう畳んで、こう引っ張っても、色んなものが掛かっているから。たまにはヒーゴー(痒い物)といって手袋しても、触れたら痒い、もう痒くて、あのヒーゴー掛かったら大変だったですよ（笑い)。また見たことない貝殻なんかが掛かりよった。今だったら飾り物で上等だけれども、これをいちいちきれいに外す暇ないから、丸い木ハンマーで、もう叩くだけ、叩いて、皆バラバラにしますよ（笑い)。

ウミマーチ（海松)と呼ばれ、深さ 100 ﾒｰﾀｰに生えている。サンゴと一緒に掛かってくる。（上原常太郎所蔵）

小さい石なんかも皆外す、網広げてきれいに外さんとダメですから。ハンマーで叩いて、これ外すのは面倒くさいです。で、外すのが間に合わんかったら、予備沢山積んでいますから、サンゴは外さんで、ロープから切って、そのままダンブルに入れる。これ外すまでに船どこに流れるか分らんから、新しい網入れる。これは帰りの航海中に、暇々見て、ダンブルから取り出して広げて、また網外しよったです（笑い)。

32 歳　豊岡丸に　漁労長で乗る

福泉丸には、何年か乗って、そのあと、豊岡丸(10 ﾄﾝ)に替わった。あれは岡村豊三郎さんの船、この人は与那国で、サンゴ船は初めてで、経営だけですよ。で、岡村さんに頼まれて漁労長で乗った。サンゴ船の親方は大変だったはずですよ。普通漁船の船員は歩合制だが、サンゴ船の場合は皆給料制です。マグロ船とか、一本釣り船だと、水揚げしたら魚すぐセリに出します。で、売上げから船の経費とかを差し引いて利益出して、これを 5・5 とか 6･4 で、親方(船主)と船員で分ける。だから水揚げしてセリ出せば、金も回るから、船の経費も、配当金の支払いもできる。サンゴ船は違う。幾ら水揚げしても、セリがないからすぐに売れん。サンゴは入札があるけど、あれは年 1,2 回しかないから、金は回らんですよ。サン

サンゴ網を手入れ中の豊岡丸の船主岡村豊三郎氏。(「今日琉球」より)

ゴ船は経費も掛かるし、船員の給料も毎月払わんといかん。親方は金の工面に苦労して、大変だったはずです。

サンゴ船やるのは大体が夏です。カツオ漁とかで忙しい時期だから、ベテランの海人はあまり乗っていない。半農半漁の、海を知らない人達が多かった。簡単な仕事だから、その分給料は安いさぁ（笑い)。

親方(船主)も元々海人じゃない。だから漁労長、船長も頼んで雇う。サンゴ船の場合、漁労長に一番の責任がある。海に行ったら、船長は普通船員みたいに働かんといかん。漁労長は給料も船長の倍位はとる。それに船員の給料も漁労長が決めるわけです（笑い)。

尖閣　赤サンゴ揚がる　桃掛からん　草掛かる

尖閣列島にも行きましたよ、宮古やっている時から、尖閣の話はよう出ていましたねぇ。ウチなんか行った時は、宝山があんまりだったから、尖閣に行った。行ってみて、魚釣島の東側にソネがある、浅瀬があるから、あそこに網入れたら、赤サンゴがあることが分った。あそこの赤は大体 80 ﾒｰﾀｰから 100 ﾒｰﾀｰ。やってみたら、赤しか揚がらん、あんまり採らなかった。赤採る人いないです、安いから。桃サンゴが金になるもんだから。

それで、桃サンゴ採ろうと 80 から 100、200 ﾒｰﾀｰ下に、網を下げて行ったですよ。尖閣は潮が速いさぁ、しょっちゅう北にチャー(常時)行きだから、網入れて、船が流れたら、大体 40 分位で、網揚げないといかん。網揚げたら、アキサマョー！！!(感嘆詞、おやまぁの意)、草がいっぱい掛かってきた。針金みたいに長くて硬い草、海サボテンから、ウミマーチから、色んな物が掛ってきた。赤サンゴが掛かる 100 ﾒｰﾀｰの所には、あんなに草はないです。桃がある 180 ﾒｰﾀｰから 200 ﾒｰﾀｰに網入れたら、もう草ばっかりですよ。

桃は少しは掛かっていたけど。あんなに草が掛かったら、網がサンゴの上に被っておっても、草が丸く束になっているから、この上を滑って行って、サンゴは掛かる暇ない(笑い)。それに、あの草を外すには大変だった。1 時間ナーでは網外し切れない。尖閣行ったら、サンゴは掛からなくて、人間が忙しいですよ（笑い)。だから、船員は向こうに行くのは気が進まん、嫌がったですねぇ。

上空から見た大正島、尖閣諸島は海草？が多いせいか、網に草が掛かり操業を敬遠されている。(奥茂治 2008)

アカオ南　やったら　赤サンゴと草が

あとアカオ（大正島）南側かなぁ、10 ﾏｲﾙ位、15 位ﾏｲﾙ行ったら左に下がる所ある、百尋

線の下側で、フチミグワー(大陸棚縁辺)になって、あっちに網入れたら、やっぱし赤サンゴが掛かった。桃も大きい木が掛かるけど、そんなに沢山は掛からない。代わりに、こんな草が、海サボテンが沢山あるわけ。魚釣島の東と大体同じよ。もう網下ろしたらサンゴ掛けないうちに、草とかがいっぱいに掛かってきましたよ。あれ外すには大変だったです。船員もぶつぶつ文句言ってねぇ（笑い)。尖閣行ったら、もうサンゴは掛からなくて、人間が忙しい。だから、船員は向こうに行くのは、嫌がったですよ（笑い)。

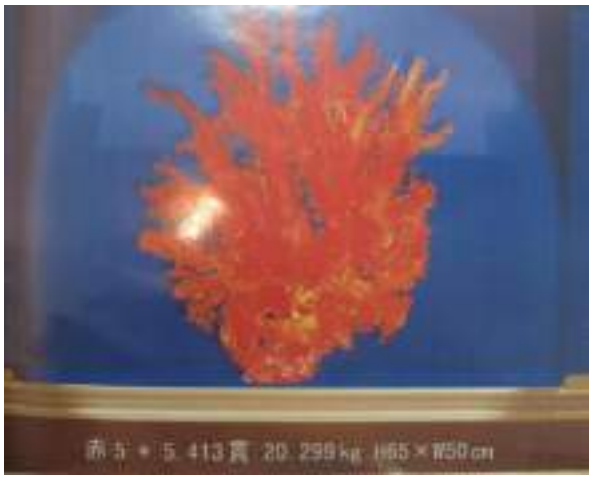
また、赤サンゴは採れるけど、桃はあんまり採れない。今が赤サンゴは高いみたいですねぇ。中国があんなに高いから、台湾でも赤が高いみたい。桃とかピンクは安いと言いよった。あの時分は桃とかピンクとかが金になる。

赤は買う人いない、いても安い。赤採ったら引き合わん、船員の給料、食料代なんか上げて、人使っては引き合わない赤字ですよ。だから、皆あんまり尖閣には行かなかったですよ。ウチらもあとからは行かんかった。

尖閣専門・小橋川長助　3名で　ずっと行っていた

(1967 年度尖閣で操業したサンゴ船主と生産高一覧表を見る　※同一覧表は末尾に掲載)。これ、僕がミッドウエィに最後に行って、サンゴ辞めたが、大体そのあと位だねぇ。結構行ってますねぇ。小橋川長助さん、慶田清稀さん、前西原豊さん、砂川亀吉さん　池間幸夫さんも。こんなに尖閣に行ったわけですねぇ。この人達皆知ってます。昔のサンゴ仲間で、先輩達だったです。もう皆亡くなっていますよ。こっちの慶田さんは、僕と歳は一緒位、この人はまだ元気だはずです。尖閣で、皆サンゴ採ってますねぇ。採っているが、この表にサンゴの種類ないが、殆ど赤ですかねぇ。桃はあんまり採れなかったですから。

この小橋川長助さん、この人は尖閣専門でしたよ。昔から、僕がやっていた頃から、ずっと尖閣に行ってました。与那国の人ですよ、第三新徳丸という船持って、これが一番小さい船だった。宮古にいたが、船があんまり小さいから、他の人みたいに資材は買いきれない。宮古の宝山とかでは採らなかったけど。尖閣に行って、3 名で行って、少しずつナー採っていると言っていた。あとからは宮古から八重山に引っ越していったですよ。



尖閣諸島で採れた赤サンゴ。1970 年採取。
重さ 20.3 ｷﾛ、H65×W50 ｾﾝﾁ。時価 22 億円とある。
（稲葉恒雄提供）

八重山の大川にいて養豚しながら、船があるから。すぐアカオに行ってサンゴ採っている。どこで採れるか、分かるから。3 名でヨー、ゆっくりゆっくりやって。2 人は島の後輩だから、給料やらんでも、ご飯食べさせて、酒飲まして、手間賃少し上げれば

いいわけです（笑い）。他の人みたいに、お金は掛からんから。そんなして、ずっと尖閣に行ってましたよ（笑い）。八重山から尖閣までは、大体８時間位で行くさぁ。今の船だったら４時間で行くんだけど。あの時分の船は８時間位、小橋川さんは第三新徳丸で、３名で行ったり来たりしてました。少しナー、サンゴ採っても、燃料代とか、手間の分はあるさぁ。それをずっと尖閣専門に続けてましたよ。養豚しながら（笑い）。もう本人亡くなったです。2 人も亡くなった。1 人は泊にきて、海に落ちて亡くなりました。誰か 1 人でも元気だったら、その時の話が聞けたんですがねぇ。

宝山　噴火の焼石？　サンゴあって　草ない

宝山辺りは、尖閣よりは、海サボテンとか、ウミマーチとか、草はそんなに掛からないです。宝山行ったら、これ位の焼石に、こんなサンゴが生えてよ、この石に生えている桃サンゴがそのまま石と一緒に掛かってくる。これ位の奴かねぇ、殆どあれの前に生えているサンゴは大きかった。この石は噴火の跡の石か、何か分らん、真っ黒して、これ位の石がゴロゴロして、サンゴと一緒に網に掛かってきたんですよ。

石も重い、相当な重さ、あれに生えているサンゴは大きいです。石はもう真っ黒くして、草は少しナーは掛かりはしますよ、だけど尖閣みたいに掛からん。あの石の前には草は生えない。サンゴだけしか生えない。珍しいよ(笑い)。でも、サンゴの付いた石は、全部が全部そうでもないけど、でも真っ黒くして焼けていた石が多かった。そしたら、そこのサンゴは大きいわけですよ。

宝山がダメといって、今度は八重山の東側に行ったですよ。行って、やったら、あそこもそんなに草ない、1 回ピンクが掛かりよった。向こうには８隻位が行った。

で、港からこの場所まで 3 時間で行きますから、あそこには 1 ヶ月あまりかねぇ、やって掛からんから、もうあそこもダメでした。

で、与那国にも探しに行っているけど、この位のクサリギー(腐り木)サンゴ、この位あるけど、外は皆虫食っているさぁ。して、折ったら、中身のこの位、芯はあるわけよ。芯があるから、新しいのは掛かるんじゃないかなぁとやったら、ポッボッとは掛かるけど、そんなに掛からんさぁ。あそこにもう 2 航海行ったけど、与那国に行ったら、チャー(いつも)赤字で帰って来たですよ（笑い)。

サンゴ枝の形･質　地形見て　生え状況　見当

サンゴがある地形ですか、魚探で見たら、真っすぐしている所はあまりないんです。

ちょっと凸凹のある所に、こう山がありますでしょう、急に地形がこう落ちる所があります。でもこういう所はあると見当付けても、採れるかどうかは実際やってみないと分からん。その時は潮の流れを見て、この地形がこう落ちているから、この辺に網を下ろしたら、底まで流れて、この辺から網を引っ張っていく計算でやるんです。でもやり方は人に

よって銘々違います。上手な人もいれば、下手な人もいますよ（笑い)。サンゴが折れて、網に枝が掛かってきたら、この枝の形、質とか、あと地形見て、根っ子はどの位あるか大体分ります。

海底の凸面に生えている桃サンゴ。根元は枯れ小枝が落ちているが先端は異常ない。(「奄美群島漁場調査報告」より)

例えば折れ口がありますと、こっちから折れているから、どの位折れていて、掛かってきたら幾ら位、秤にかけて幾ら位はある。あくまでも見当ですよ。下にはどの位残っていると、幾ら位あると、でも大体当りますよ。あとサンゴの質とか、そこの地形見て、あぁこっちに群がってあるとか、ないとか、バラバラだとか、生え状況を見当付けて、これ採れるなぁと思ったら、すぐブイ打ってから、またやるわけですよ。

ブイはドラム缶を 2 つこう引っ付けて、ぎっしりして括って打つわけ。夜は暗くなる時分にダルマ灯点けて明かりせんと分からない。夜もずっとやるから。昼はバッテリーを充電するからダルマ灯取って、遠くからでも見えるように旗立てます。で、晩方なったら旗取って、ダルマ灯点けて。で、大体 1 航海 8 日から 10 日位だから、操業終えたら、このブイ揚げて、持ち帰ります。だからブイは皆銘々持っていて、操業場所には自分達のブイ打っておかんといかん。

折り口舐めて 質判断　たまに 高価なボケサンゴも

赤サンゴは安いから、皆桃とか、ピンクとか、狙っていた。宝山でも、尖閣でも、どこでも桃とかピンクのある所は 180 から 200 ﾒｰﾀｰですよ。そこから、たまにですが、桃と一緒に赤も掛かってくる。またピンクとも一緒にも。赤は僅かだけど。

赤サンゴはまた平均に小さいです。こんなのは大きいのはない。赤は大体この位に皆小さい。貫木は少ない、枝が多い。桃のは相当大きい。1 本で 5 貫目、6 貫目掛かってきた、根元から。で、桃とかピンクを採ると、折口を唾で舐めて、透明なったら値段が高い。ガラスみたいに透明なのは高い、また木の模様みたいに、この折口にギザギザしているのはちょっと安い。表面は同じ桃とか、ピンクだけど、折ったら違うわけ。だから折ってみたら、もうガラスみたいに透明なのは高い。ダイヤモンドも透明でしょう。あぁいった感じで高いわけ。これがボケとか、スカッチといって、これ当ったら普通のサンゴの 3 倍位の値段、でもなかなかあれは掛からない。掛かったら儲けものですよ（笑い)。

サンゴ屑“ピンコロ”　船員の小遣い賃

サンゴ船は操業して危険というのはあまりなかったですねぇ。ただ網揚げる時に、ライ

ンホーラーでロープ巻くから、このホーラーに巻かれたら危ないですから、もう夜はどんなことがあっても、前に行かんで、ロープは後ろから手繰りなさいと指導したです。

夜シケている時はちょっとやり難いから、皆雨合羽を着けて、雨靴履いているから、転ぶ時もある。だから、ホーラーの前には行くな、後ろでやりなさいと、口うるさく注意したです。網揚げたらもう忙しい、船は流れているから次の網入れんといかん。滑ってホーラーに巻かれたら、もう危険いですからねぇ。

で、網揚げたら、甲板にこれを広げて、サンゴとか草とかを、いちいち外しておったらもう間に合わん。サンゴさえ外せば、小さい枝とかはハンマーで砕いて　もったいないけど、ハンマーで打ったらもう短いさぁ、これのピンコロ（サンゴ破片・屑）と言うさぁ。これが網の下に落ちているから、拾う船員の物よ。あれたちのワタクサー(へそくり)、洗い流して捨てないうちに、皆拾って、ビンに入れて、船員なんか、あれで相当儲かっている（笑い）。

サンゴ屑ピンコロ。加工業者が浜で待機して、買い取った。船員達はこれ集めて売り小遣い稼ぎにした。

マグロ船なんかでも、昔からサメが掛かると、サメのヒレはダンブルに入れないから、皆船員のワタクサー(へそくり、小遣い銭)、ヒレ取って、干して、これ売って、皆タバコ賃にしていた。サンゴ船でも、サンゴのピンコロは船員のワタクサーです（笑い)。

宮古でやっている時は、傍に皆 1 升ビン置いて、こうハンマーで叩いておって、ピンコロを拾って、皆で、せっせと 1 升瓶に入れるわけ（笑い)。で、サンゴ船が港に着いたら、これ買う人から、あれで女の子のネックレスなんか作る加工業者が買いに来る。安く買えるから、1 升ビンだから相当な金ですよ（笑い)。あれを売ってタバコ賃、小遣い稼ぎにしておった。ウチなんかは、このピンコロは関係ないさぁ。1 航海にたまに 1 升瓶の 2 つ位持って。船員なんか頭がいいから、この位小さなサンゴなら分るけど、時々は、少し大きいものもハンマーで、もうバンバン叩いて、ピンコロにして、1 升瓶に入れておったよ（笑い)。

ウチなんか責任者も、たまには親方からサンゴもらいました。そんなに沢山じゃない、少しですよ。もらったら、サンゴ加工する店があるから、向こうに持って行って、指輪とか、ネクタイピンとか、加工させて、半々で分けた。加工賃代わりに、半分上げた。指輪作ったら、台は 18 金だから、あれ売った。もう皆安売

サンゴは船主が資金繰りが苦しいと入札に廻されず、浜売りされ、即刻現金化された。

りしたですよ（笑い)。

サンゴ　沖縄で　国際入札も

採ったサンゴ、最初は神戸に持って行って、入札しておった。あとから沖縄で、国際入札やった。年に 2 回、波の上の松の下料亭、向こう借い切りして、すごかったですよ。

その時はﾄﾞﾙ時代で、現金払いだから、内地から来る人は鞄に、こんなにお金持ってきて、これ位のカゴに、いいサンゴはえり分けて、入れて。で、皆、並べた品物見て、これは品いいねぇ、これは幾らと、入札しておったです。あれだけの品だから、大体入札終わるまで 1 週間位でしたよ。ウチらもセリに出しているから行かんといかん。だから 1 週間食べるのも贅沢に向こうでくれるわけ。

サンゴ組合がそこ借い切りして、もう自分の奥さんでもいいから皆連れていって、あんなに食べさせておったよ。ご馳走つくって、飲むのも飲みたい放題、ものすごかったです。サンゴを出した人は、入札だから、その場にが値段は分かるさぁ。サンゴ船の親方相当儲かったはずよ。最低でも、半年で 1 億 5 千万位かねぇ、もっと儲かったかなぁ、2 億から 3 億は（笑い)。

映画「八月十五夜の茶家」の舞台ともなった料亭松の下。当代沖縄随一の社交場、借り切ってサンゴ入札を行なう。

1965,66 年　サンゴ組合　ミッドウェーへ　出漁

泊のここで安里虎寿さん、柴田重利さん、岡村豊三郎さん、あと誰だったかなぁ、7､8 名位でサンゴ組合やっていた。ミッドウェイでサンゴが採れると聞いたもんだから、100 ﾄﾝ位の船をチャーターして、慶田さんに頼んで、向こうに採りに行ったわけですよ。

行って来て、その翌年かなぁ、また組合は向こう行くということで、泊のマグロ船、海幸丸と魁丸を 2 隻チャーターした。内地から中山さんというサンゴ専門家を連れてきて、魁丸の漁労長に。海幸丸は私を頼みに来たんだけど、私は 2 回断ったんですよ。したら、豊岡丸の岡村さんが、バカ野郎！　何んで行かんと断るか、お前ができんで、誰ができるか、行きなさい！、じゃ行きますよと、承諾しましたよ。

だけど、魁丸は 100 ﾄﾝ位、乗組員は 15,6 名、ウチが持つ船は 220 ﾄﾝ位で、36 名。もう、宮古行って、あそこの連中も頼んで来て準備しておった。でも組合は金がないわけです。

給料、資材、食料、燃料、皆入れたら、220 ﾄﾝの 1 隻で、大体 3 万ﾄﾞﾙ位掛かるから、したら 2 隻だったら、詰め込み、給料入れたら、もう 5 万ﾄﾞﾙ位準備せんと、詰め込みできないさぁ。

出漁資金　女傑照屋敏子　出資

で、柴田さんと豊岡丸の親父と、那覇のサンゴ土産店の照屋敏子といって、カンプー(髷)結うた糸満出身の女傑ですよ。柴田さんと岡村さんは向こうに金借りに行っているわけさぁ。資金出してくれと、財閥だから、行って話を聞いたら、昔は福岡で、船 2 隻持っていて、あれで追い込みしたらしい、海のことはよう分かる。そしたら 2 人は断られたわけですよ。断るというより責任者連れて来いと言うたらしい。

リー(さぁ)、リッカリッカ(行こう行こう)。マーカイヤイビーガー？（どこへ行くんですか？)。こうこうお前を店に連れて来いと言うから、連れに来たよ。アイ、何で親父、僕が行ったって意味がないさぁ。僕が行ったらお金借りられるの？　あそこが来いというから行ったわけですよ（笑い)。

照屋敏子さんと宝石サンゴ店「クロコデールストア」。地下はサンゴ加工場。

で、店に行って話したら、私に、あんたミッドウェイに行ったことあるか？　組合が 1 航海は行きました。あぁそう、あの人は大変よ、あそこの海図皆持っていた。持ってきて、こう広げて、あんたどこに行くか、どこでサンゴ採る積もりか、東の方指したら、大変ですよ。いろいろ質問して、すぐ皆調べるわけです。で、話終わって、組合長に、分った、明日来なさい。行ったら、一緒に来て、何は、はい幾らかと、皆すぐ現金払いよ。このお婆が（笑い)。

して、出港の日に、あの一斗缶がありますねぇ、あれ持ってきてから、僕に、漁労長、これはサーターアンダーギー（砂糖てんぷら）だから、これは普段は食べさせてはいけない。海はいつシケるか分からんから、シケて飯が炊けない時に、これを出して皆に上げなさい、サーターアンダギーを。これ皆自分で揚げたんだって、偉いですよ（笑い)。

白サンゴ揚がった　売れないから　採るな

ミッドウェイに 2 隻一緒に行った。組合は、中山さんを内地からサンゴ技術者として頼んでいるわけさぁ。あの人は戦前から台湾でサンゴ船やっていた。だから、私にどこに行っても中山さんの魁丸に付いて行きなさい。一緒に仕事やりなさいと言われた。あぁそうですかといって、ミッドウェイ着いて、網入れたら、皆白サンゴであるわけさぁ。

もう網にいっぱい掛かるけどよ、もう白だから、ウチの海洋丸に無線局長が乗っておったから、局長に、白サンゴは沢山採れるけど、どうするか、白サンゴ採ってくるかと、組合に無線打たしたんですよ。そしたら返事来た、白サンゴは売れない、売れないのを採ってもしょうがないと。で、中山さんにこうこう組合から連絡があって、ウチは別探します

よ、と無線打ったら、いいよ、行きなさい。それで 1 週間位、あっちこっち行きました。行って、一生懸命あっちこっち網入れるが、全然白しか掛からんわけ。網は白だけですよ（笑い)。またもとの場所に戻って、白サンゴでも採っておこうかなぁと思ったですよ。

そうこうしているうちに、夜なって遠くに灯が、船の灯がバァーと見えたもんだから、あれマグロ船か、何隻かおるなぁ。もう網入れて皆寝っておった。9 時頃、皆起こして、網揚げて、灯の方に行ったわけです。したら、内地の大型船が 3 隻よ。サンゴ網しているわけさぁ。

大型船 操業　網入れたら　桃サンゴ　揚がる！

船の近くに行って、操業しているから、あれなんかのやり方をずっと見ておったです。魚探で廻ってみて、潮の流れも調べんといかん。こう網揚げたら、こう潮上りする、潮はどこに走っていると分ったから、すぐ網入れてみたんですよ。もうこんなにサンゴ掛かっているわけ。折ってみたらピンクですよ。桃サンゴ、もう桃サンゴが毎日採れるさぁ（笑い)。バンナイ、バンナイ（どんどん）採れるもんだから、無線局長に、中山さんにこうこう採れるから、魁丸に連絡させたんですよ。連絡させたけど、こっちに来ないわけです。

何回か連絡しても来ないから、もういいよ、ということでそのまま操業していた。

もう揚がるのは桃だけだから、それを 18 日位操業しましたねぇ。で、これ位採ったら大漁だからと帰ることにしましたよ。

帰るからと魁丸に無線入れたら、自分なんか、網とか、ロープとか資材切れていから、自分なんかに残っている資材貸しなさい。同じ組合ですから、行ってからに資材を渡して帰ってきたんです。

ミッドウェイで採れた桃サンゴの原木

結局、魁丸はあとから来て、皆白サンゴ採って、もう赤字ですよ（笑い)。白は安いどころではない、売れない。ウチのは桃サンゴさぁ、あの時分は桃が高いから、アキサミョー(感嘆詞　時)、ウチなんかは黒字、あれなんかの赤字を埋めておる（笑い)。

あの時、内地の船も桃採っていた、3 隻。あれなんかは 150 ㌧位の船で、ずーと採っておった。ウチなんかより先にやっているけど、ウチなんかが帰るまで、あれなんか帰らない。

だから、相当運がよかった。あの時桃はどの位採ってきたかなぁ。もう忘れたけど、最低でも 800 貫位はあったかねぇ。1 貫が 6 斤、3.75 ㌔だから、800 貫なら、約 3 ㌧位かねぇ。はっきり覚えていない。

照屋さん　出資金分　10 数年分？　サンゴ買い込む

あの頃は年間 2 回、国際入札であるわけさぁ、そしたら、ミッドウェイから採った桃サ

ンゴを入札したら、あの照屋さんが、アキサマヨー、皆あの人が、相当取った。船 2 隻分の積め込み 3 万ﾄﾞﾙ出してあるから、3 万ﾄﾞﾙ金出した分のサンゴを買い上げている。

照屋さんは国際通りで 4 階建て店あるさぁ。あの建物の地下で、サンゴ、宝石類とかは皆加工してある。あの時入札して、サンゴは何 10 年分と買い上げているから、組合のサンゴ船には資金はもう出さない。出す必要もないさぁ（笑い)。結局、ウチらがミッドウェイから持ってきたサンゴを相当買い上げているから。

あれからは資金はもう出さん。組合はお金ないですよ（笑い)。帰って来た時、組合長の柴田さんが文句言うておった。お前は何で、中山さんを呼んで、桃を採らさんかったのか。組合長さん、失礼だけどねぇ、2､3 回呼んでいますけど、来ないから、これ以上呼んだら、迷惑と思って、呼ばなかったんですよ。あぁそうねぇ、魁丸も桃採って来ていたらよかったが、あの白の赤字を、お前達の桃の黒字で埋めたから、儲けはないよと言うていた。

落入したミッドウェイ産の桃サンゴ原木。枝が山なす。

もう組合が出すお金はないから、ウチらがミッドウェイに行ったのが最後でした。あれっきり組合もサンゴ船辞めて、そのあと解散したわけです。

ミッドウェー　ペラに　ロープ絡まり　潜って外す

ミッドウェイは、ハワイと東京の合い中位、片道 15 昼夜、15 日掛かりよった。往復 1 ヶ月です。大東亜戦争でミッドウェー海戦のあった所です。あそこに大きなソネがあって、海図から見たら、ソネは沖縄より大きい。

で、昼、ウチなんかが仕事していたら、内地の 150 ﾄﾝ位のサンゴ船 1 隻が旗振るから、何かなぁと思って、行った。行って、船着けて見たら、ペラ(スクリュー)にサンゴ網のロープが巻いて動かんと言うわけ。サンゴ船乗っている人は潜りはできないから、誰か潜ってやってくれんかと頼まれた。もう僕は若い時は潜っているから、ミーカガン(水中メガネ)とかはいつも持っている。で、包丁持って、潜る準備して、あんたなんかの船のエンジン止めろと言って、エンジン止めさせたわけさぁ。絶対エンジン掛けるなと言って、潜って見たら、ペラにもうこんなにロープが巻いているわけ、そのロープ切るのに半時間位かかった。して、終わって、元の場所に戻って、また仕事やっていたら、また来い来いしたよ。

何かなぁと思ったら、今度は封筒よ。封筒に何か入れて投げたきた。拾って開けてみたら、お金 300 万円、僕にさっきのお礼というわけよ。僕の権限だから、取って、もう船員にはくれないさぁ。機関長、船長、局長、ボースン、ボースンも 2 人いたからよ、あれな

んか皆に 20 万ずつ分けて、残り僕がもらったですよ。こんなこともありましたねぇ。

船員に一苦労　沖で黙って　陸で懲らしめる

サンゴ採りは、人間使うのが大変です。このミッドウエーの時は 36 名の人間で、ハッサヨー、これなんか調整取るってあんな苦労はない。航海も 3 ヶ月と長いから、ずっと神経使いました。海の上ではも少しのことでも我慢するしかないです（笑い）。黙って見ておかんとあれだけの人間は使えないです。

サンゴも掛かったら、夜もずっとやり放しですよ。夜通し仕事するから、疲れたら、人間は何を考えるか分からん。中には 2､3 名はきついといって眠って仕事はやらんさぁ。ボースンが怒ろうとするけど、いいよ、黙って寝かせて置きなさいと、そう言ったですよ。あれなんか、もう寝るだけ寝て、今度は、今日から仕事やろうと言うけど、僕はさせなさい、させるなと、ボースンに言うわけよ。で、帰ってきて計算したら、給料は普通の人の半分もくれなかった。これ漁労長が決めるわけだから（笑い）。

で、少ないと文句言います。言うけど、これ仕方がない。お前達、仕事やらんで、何で皆と同じようにもらおうとするか、叱ってやるわけですよ。

豊岡丸の場合は 8 名から 10 名でした。皆宮古の久松の人で大人しかったです。その代わり仕事終わって、晩酌しないと夕飯は食べんわけさぁ、だから泡盛の 1 合瓶があったでしょう。で、何名分といって、大体 10 日分を、予備も積んで行きますよ。それを 1 本ナー、これ以上は飲まさんわけさぁ。これ飲んで、飯食べて、また寝るから、久松の人は文句言わないですよ（笑い）。

八重山サンゴ騒ぎ　内地船　10 数億揚げた？

とにかく、ミッドウェーで、あれが最後のサンゴ採りだった。あの時儲かって八重山に行って、家内が雑貨屋して、僕は 3 ﾄﾝ位の船造って、あれで一本釣しておったんですよ。

今度はその時の話、八重山の海人はサンゴの意味が分からんさぁ。したら、あるアガリグヤ(東小屋：糸満系の海人集落)の一本釣船がサンゴ掛けてきて、港の傍らの観光土産店がこれ買って、店の飾り物にしていたんです。たまたま僕が向こうに行って見たよ。この位の石に付いたサンゴ、扇みたいに広がってきれいさぁ。

これどこから買った、幾らで買ったんですか？と聞いたら、東小屋から買った。50 ﾄﾞﾙで、じゃ、僕が 70ﾄﾞﾙで買いましょう。いや、これは店の飾りものだから売らない。

そう言うもんだから、東小屋に行った、行ったら名前聞かんでも、狭いから、誰が掛けたかすぐ分かった。あんた、あのサンゴ掛けた所分かるねぇと聞いたら、場所は分る。あれなんか山当てで、漁やっているから、行って山当てしたら、掛けた場所に、すぐ連れて行けると、そう言っていた。

で、サンゴ採りは許可証もらわんと権利ができないわけさぁ。で、慶田さんは許可証も皆持っているんですよ、で、慶田さんに連絡するから、彼がこっちに来るまでは、あんた

この場所、誰にも言うなよと、そう言って帰ってきたわけです。

あの時に、丁度内地のサンゴ船が 3 隻が来ておったらしい。私はそんなこと分からんさぁ。で、このサンゴ船の人もあの店のサンゴ見て、掛けた本人を探して、これ掛けた場所に連れて行ってもらって、で、3 隻で、バンバンやったわけです。

したら、やっぱり、サンゴが相当掛かっておったんじゃないか、あの本人は見てないから分からんさぁ。1 隻の船が帰る時、港に着けて、本人に、はいと、封筒渡したらしい。

お礼のお金さぁ、幾らか分からん。ちょっと厚みがあったから、そのまま家に帰って開けて見たら、100 万円入っておったって（笑い)。もう内地船は帰っていないし、サンゴも採り尽くしたあとですよ。そのあと、本人に慶田さんに会わして、話したよ。あんた、何であんなことするねぇと、意味が分からんから仕方がないけど。あの時は復帰前さぁ、アメリカが治めているから、内地船はこっちでサンゴ操業できない。許可証もないから。

許可証持っている人から借りたらできる。慶田さんは許可証もっている。借りて操業はできるから。そしたら水揚げの 3 割は払わんといかん。あの時 3 隻で、2 航海といったかねぇ、10 数億円位は揚げたらしい。その 3 割なら数億円になるさぁ。僕らも大きな魚を逃がしたけど、一番びっくりしたのは本人だったさぁ（笑い)。

このあとからですよ、もう八重山の海人は、どこ行っても、もうサンゴの噂と話 (笑い)。

石が掛かっても、サンゴ、サンゴ。あの赤石なんか、あれが掛かったら、あぁサンゴだと言うし（笑い)。あの時ですか、僕が 34,5 歳位だから、1970 年か、71 年頃かなぁ。

もう復帰直前だったかなぁ。もうあの時には沖縄サンゴ船は皆辞めていたです。慶田さんだけは辞めないで、サンゴ許可証持って、サンゴ船続けていましたよ。

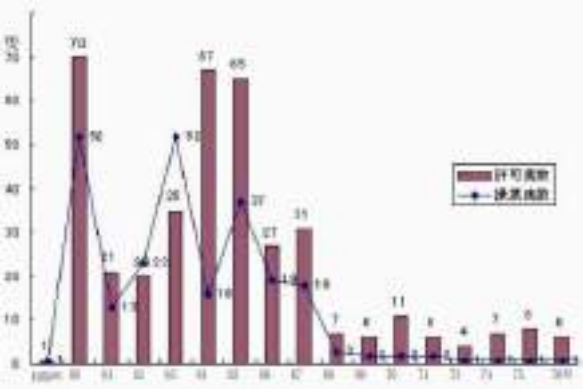
サンゴ採り尽くす？　サンゴ船　次々廃業

僕がサンゴやった最初の頃は、だいぶ採れたです。1962 年から 2,3 年は採れました。

だけど、あれだけの船ですから、段々採れなくなって　宮古の宝山辺りではあんまり採れない。位置が当っても、全然潮の流れがよくても採れない、もうダメです。

あのサンゴの採れる範囲はあんまり大きくないし、70､80 隻の船が 10 日間位やっているわけだから。もう大体やって、掛かり方見て、これでは引き合わないと分かります。1 航海大体どの位採らんと、収支の計算してが仕事はやりますから。乗組員の給料もあるし、網の資材、積込みの経費もあるし、この分も採りきれないから皆辞めたわけです。

宝山もダメといって､サンゴソネでも、大九でも、どこ行っても、よう経費が取れないといって、皆辞めました。



サンゴ漁業の許可隻数及び操業隻数
（「沖縄のサンゴ漁業に関する実証的研究　比嘉堅」より）

豊岡丸の親方の岡村さんはもう少し頑張ろうと続けましたが、やっぱり経費が取れなくて、辞めたわけです。僕がミッドウェー行く前には廃船してました。豊岡丸ですか、最初6ﾄﾝ、あとでは10ﾄﾝでしたから5年位やりましたねぇ。

（サンゴ船の推移図を見せる）これがサンゴ船の許可隻数と操業隻数ですか。この表の1962年を見ると許可20隻、操業数23隻とあります。僕はその頃やり初めた年です。その時に、宝山に行ったらサンゴ船7,80隻いたですよ。実際操業していた船は7,80隻、これには23隻ですねぇ。大分数字が違うのは殆どが無許可船で操業していたわけですかねぇ（笑い)。よく分からない。だけど、この表見たら隻数は段々減っていくことがはっきり分ります。サンゴ採れなくなって皆辞めていってます。

1967年の18隻から、68年には3隻に減って、そのあとは2隻、1隻になっている。

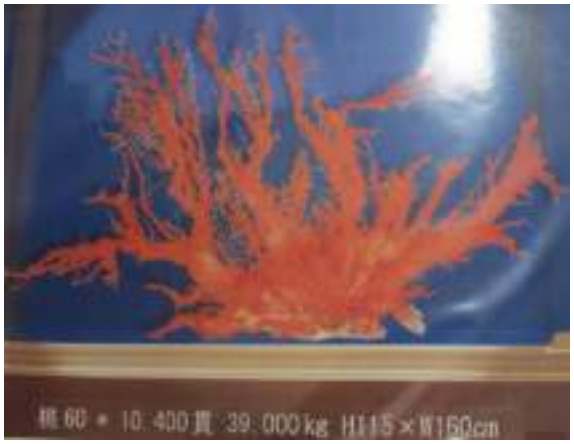
最後の年の1978年の1隻は、慶田さん所有の第六宝興丸とありますねぇ（笑い)。

最後の頃までやっていたあとの2隻は、大城清二さん、安里虎寿さんかもしれん。

サンゴ船　当れば　相当儲かる　親方取り分　80%

サンゴ当てた人は、相当儲けたはずです。だいぶ採れたから、億単位で儲けていますよ。

親方なんかは相当儲かった。船儲けの80%はもらうわけだから。船儲けというのは、食料代、資材とか、船員の給料とかの経費を皆差し引いた純利益です。責任者は漁労長だから、船儲けの 20%を取って、10%は自分でもらってから、あとの 10%は皆に上げる。船長とか、機関長、ボースンにはちょっと上乗せして上げて、普通の船員にはまじめとか不真面目がいるから、あれには幾ら、これには幾らと決めてやる。これは責任者の判断でやるわけです。



宮古島近海で採取した桃サンゴ、1970年頃採取。
重さ39ｷﾛ、H115× W160ｾﾝﾁ　時価40億円とある。
（稲葉恒雄提供）

して、親方には、船儲けの残り 80%が行くわけ。あれだけ利益があるから大変ですよ。親方なんかは相当儲かった。ハッサミヨー（驚きの感嘆詞)、サンゴ1貫(3.75ｷﾛ)で、いいものになると500ﾄﾞﾙもしたから。あんなに金が儲けられるかねぇと思う位、相当儲かっていたです（笑い)。これ苦労して儲かったお金じゃないから、大変だったですよ。

宮古の港の前で、瓦葺 2 階屋、宮古ホテルとあったです。あそこを借り切りして、天気の悪い時は、皆でバクチャー(賭博）して。あそこは人泊めるより、親方連中の飯作って、バクチャーさせて、相当儲かっていますよ（笑い)。ウチなんかも誘われて行ったです。

あの時若いからいつでも儲けられると思って、2,3回付き合ったけど（笑い)。

もう親方連中のバクチャーは大変でしたよ。もうバンナイ、バンナイ賭けては、捨てて、

お金を紙くずみたいに、もうびっくりしましたねぇ。サンゴで儲かった人達、親方達は、皆あんなでしたよ（笑い)。その代わり、もうサンゴ採れなくなったら、もう皆苦労しています（笑い)。

儲かった人　サンゴ夢見て　サンゴに　金捨てている

サンゴで儲かった人は、もうサンゴ採れないからパッと辞めればいいけど、また儲かるからと夢追っている人もいますよ。僕が最初に乗った福泉丸の大城清一さんねぇ。大城さんもサンゴで相当儲かった。相当儲かったもんだから、サンゴ採れなくなった時は、皆は切上げたですよ。大城さんは、サンゴを諦めきれず、また儲かるから、やるといって、今度は内地に行って、スポンサー探ししてやっていた。

もう何年前かなぁ、ロボットでサンゴ採る船持ってきた。このロボットというのは潜水艇です。これは大城さんが責任持ってやって、お金は糸満の会社の社長が出したみたい。このロボットを下に降ろして、上に母船があるから、母船でリモコンで調整する。サンゴもはっきり映るから、ロボットはサンゴを挟んで折るわけさぁ。このロボットが 1 回で 1 本ナーしか採れないらしい。200 ﾒｰﾀｰ下だから、潮の流れが強いからこの調整が難しい。

母船に積んだ潜水艇。上からモニターで操作してサンゴを掴み採る。

もうサンゴは沢山あったみたいですよ。ロボットでサンゴもはっきり映るというから、やった場所？どこでやったか分からんさぁ。3 年間やったかなぁ。

結局失敗して、糸満の社長さんを 5 億円欠損させたみたい。今度はまた 2 年位してかなぁ、フィリッピンに行っているわけ。で、フィリッピンに行く時、僕の所に来て、この位の大きいサンゴの写真持ってきたよ。フィリッピンであんなに掛かるの？　あぁ掛かるよ、で、僕を連れて行くというわけさぁ。

あぁ行かない。また来て、行こう、行かない。3 回位来て、それでも断ったから、1 人で行ったですよ。　そしたら 4,5 年前かねぇ、フィリッピンで亡くなったという話を聞きました。アッキミヨー！（可哀想に！)。最後までサンゴ夢見た人は、皆大城さんと同じ。あんなして哀れしている。サンゴで儲かったお金は、全部サンゴに捨てている。

安里虎寿さんも相当儲かったけど、もうあっちこっちサンゴを探すといって、サンゴに皆お金捨てていますよ。安里さんもサンゴで儲かって、きれいな家も造って、マグロ船 100 ﾄﾝ余りの 3 隻も持っておって、会社をしておったです。この会社辞めて、船も売って、あれからまたサンゴ採るといって、また船買って、あっちこっち廻っていたよ。サンゴ採るけど、ダメさぁ。それでも、サンゴに、チャー（ずっと）お金突っ込みさぁ。

サンゴ船は大体給料だから、あとは給料も払いきれんで、辞めたと聞いたけど、元気かねぇ。大城さんや安里さんだけじゃない。こんな人沢山いますよ。サンゴで儲かった人は、サンゴ夢見て、サンゴに皆金捨てている（笑い）。

台湾船　来て　採り残し赤サンゴ　盗る？

ウチらがサンゴ採っていたサンゴブームの頃は、あの時は、台湾のサンゴ船は見えなかったですよ。サバ釣りはいたけど、あれは夜しか釣らんさぁ。電気点けて釣っておったです。台湾船が向こうにサンゴ採りに来たのはあとからです。

何時頃か忘れたけど、八重山の東側に、港から 2 時間位で近いわけですよ。台湾船は相当来て、そこでサンゴ採っておった。向こうに入ると、保安庁が追い出すわけです。捕まえはせんけど、台湾船を追い出しておった。尖閣列島もそうですよ。捕まえないで、ただ追い出すだけ。沖縄の船は、あの時分赤は採らなかった。あるんだけど採らない、値段が安いから。桃とか、ピンクを採って、赤は金ならないから採らない。

だから、赤はあっちこっちに残っておったです。あとから台湾船がこっちに来てから、あの赤採っていたはず。今、中国でもそうだけど、台湾でも赤が相当高いわけだから。

で、台湾船がやめてから、今度は中国船が来ておった。宝山なんかに、いっぱいよ。僕なんかはそれ分からなかった。小笠原に中国のサンゴ船が来たニュース見てからが分かった。中国では赤がものすごく高く売れるから、小笠原に赤を盗りに来たニュースをテレビで見た。あの時 100 隻以上は来ていたはず。あんなに来たら、保安庁は何もできんさぁ。毎日テレビでやっていたけど、上から撮っているようす見たら、アキサミヨー、もうフシガラン（唖然とする）。もう中国のサンゴ船が群がって、海いっぱいよ。あれじゃ小笠原のサンゴは皆盗られるさぁ。国会でも問題となって、取締まりを強くして、罰金も 10 何倍にするとか、法律でも決めたわけ。

宮古島宝山ソネで密漁する中国サンゴ船。（高杉忍 2014）

そしたら、友達の海人が、宝山でもあんなだったよと言った。中国のサンゴ船が沖縄にも沢山来て、あんなしてサンゴ盗っていた。もう何年間前からよと。私は海人からこの話聞いて、初めて知ったです（笑い）。テレビも、何もしないから分からんです。

中国船　押しかけ　沖縄のサンゴ　盗り尽くす？

何で、テレビも、新聞も、こんな大事なことを、小笠原みたいに知らせんかねぇ。沖縄

にも、中国のサンゴ船が沢山来ていると、これを皆に、何で言わんかねぇ、不思議さぁ。

国や、県も、ちゃんとこれ知っているかねぇ。知っていて対策しているのかよく分からんよ。それに沖縄には、サンゴはまだまだ沢山ある。沖縄はサンゴは相当有望と言われているさぁ。中国船は、あのヌクサー(残した)の赤だけじゃなく、新しいサンゴも探して、盗っているかも分からん。まだ、盗っていなくても目は付けているはずよ。

今、中国では、赤はものすごく高い、一番価値があると言われている。サンゴの価値も昔に比べて相当高くなっているわけだから。国や、県は、トルバイカーバイ(とろとろ呆け)していたら、沖縄のサンゴは、中国に全部盗られるさぁ。宝山にも、尖閣にも、八重山、与那国にも、あっちこっちに来るさぁ、久米島沖にも。したら、沖縄のサンゴ全部盗っていかれて、もう全滅ですよ。

沖縄のサンゴは莫大な財産よ。やっぱり、中国に盗られんように守らんといかんですよ。そのためには、組合(漁協とか漁業団体)だけでは、どうにもならん。テレビとか、新聞も、ちゃんと調べて、皆に知らせて。県も、国も取締りを、警備を強くして、皆でサンゴを守っていかんとならんです。　(了)

採れたサンゴを飾り、談笑するサンゴ船の船員達。1960 年頃。
（「記録写真集与那国」より）

・・・以下は「5－3、電灯潜り関係　(後半)」の項に掲載

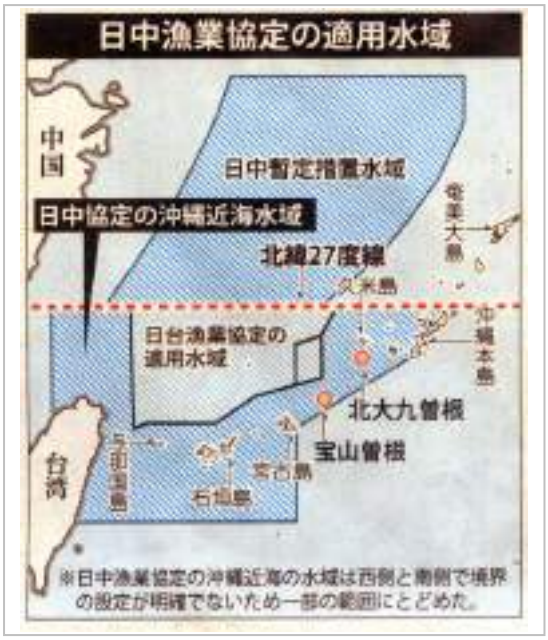
(続き)

※参考　中国船、サンゴ乱獲
沖縄近海　日本法令及ばず

中国漁船が宮古島と久米島近海の漁場で宝石サンゴを乱獲している状態にありながら、日本の法令では取り締まりができず、中国の自由操業を黙認せざる得ない状態であることが 7 日、分かった。1997 年の日中漁業協定締結の際、当時の小淵恵三外務大臣が沖縄近海の水域で中国が操業する際、日本の法令を適用しないとする書簡（小淵書簡）を中国側に提出していた。赤土の流出やオニヒトデの影響で宝石サンゴが減少している中、県内漁業者は海洋資源が奪われてしまうと反発。協定の見直しを求めている。（仲田佳史）

沖縄総合事務局によると、中国船による宝石サンゴの採取は、2005～06 年ごろから始まったという。当初は中国大陸から沖縄近海にまで延びる大陸棚の斜面で 1～2 隻が年間を通じて採取していたが、11 年には久米島南方の「北大九曽根」で約 20 隻、12 年には宮古島北東の「宝山曽根」で約 40 隻が確認され、宝石サンゴの採取は年々、活発化しているという。

日中漁業協定では、①北緯 27 度より北側の日中暫定措置水域、②北緯 27 度以南の沖縄近海の水域―での操業が認められている。



①は、毎年開かれる日中漁業共同委員会で許可隻数や漁獲量、操業期間などを制限している。だが、②は、「小淵書簡」で日中両国が海洋資源の維持が過度の開発によって脅かされない協力関係にあることを前提として、日本は関係法令を適用しない意向を表明。以降、日中漁業共同委員会で協議事項から除かれる状態が続いている。

関係者によると、当時、尖閣諸島の領有権問題を「棚上げ」する代償として、日本政府が認めたという。

中国漁船の採取の活発化を受け、水産庁は一昨年、中国にサンゴ漁船の操業を照会。だが、中国側からは操業の実態が把握できないとの回答があったという。関係者によると、サンゴ採取は中国では違法だが、中国政府はサンゴの陸揚げルートが不明確で証拠がつかめないとして、事実上、黙認しているという。

（沖縄タイムス.2013 年.5 月 8 日）

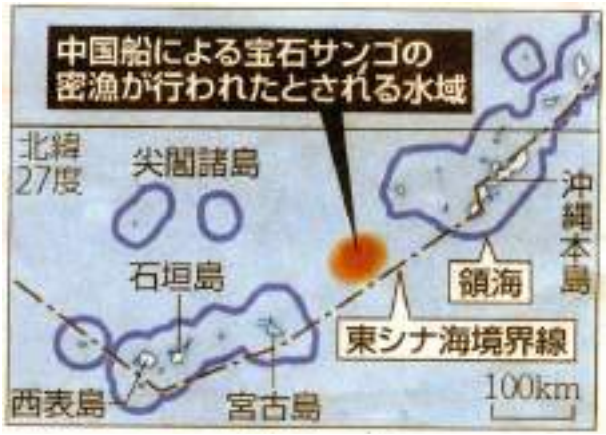
※参考　宝石サンゴ密漁 被害調査
沖縄近海　中国船関与 立証へ

中国漁船による日本近海の宝石サンゴ密漁問題で、水産庁は 8 月、沖縄周辺海域のサンゴの資源調査に乗り出す方針を固めた。この海域では 2013～14 年頃、中国漁船による集中的な違法操業が行われた一方で、直前の時期に宝石サンゴの分布状況などを調べたデータがある。同庁は、データと比較して乱獲を実証することで、中国に密漁の取り締まりと再発防止を迫りたい考えだ。

水産庁取り締まり要請方針

宝石サンゴの密漁は昨年 9 月から今年 1 月にかけて、東京・小笠原諸島の周辺海域でピーク時に 200 隻を超す漁船団が確認され、問題化。水産庁が今年 3 月、同海域を調査したところ、海底から中国漁船のものとみられる漁網 381 枚が見つかったため、政府は外交ルートで中国政府に再発防止を要請した。ただ、小笠原では元々の海底の状況を示す資料はなく、被害の深刻さを立証しにくかった。これに対し、沖縄周辺などの海底では 10～12 年、高知大や立正大の研究グループが海底を撮影し、宝石サンゴの生息状況を調査。沖縄の 10 か所（1 か所あたり約 2 万～6 万平方ﾒｰﾄﾙ）の宝石サンゴの分布密度などのデータなどを保有している。水産庁によると、沖縄周辺で 13～14 年、多い時に約 200 隻の、宝石サンゴの密漁船とみられる中国の漁船団が確認された。

日本の排他的経済水域（EEZ）内だったが、日中両国は 1997 年の漁業協定で「北緯 27 度以南」「東シナ海境界線以北」の EEZ では中国漁船の中国漁船の通常の操業を認め、中国国民に日本法を適用しないことを合意している。宝石サンゴの採取は中国法で禁じられ、日本でも自治体の許可が必要にもかかわらず、日本側は取り締まれなかった。今回の調査は 8 月下旬頃から約 1 か月間を予定し、同庁の漁業調査船が、無人潜水探査機で水深数百ﾒｰﾄﾙの海底を撮影。折れるなどしたサンゴがあるかどうかや、漁網による地形の変化などを調べ、研究グループから提供を受けた映像やデータと比較して、被害の範囲や規模の割り出しを目指す。



密漁の形跡が見つかっても、中国船のものと断定するのは難しいが、同庁は海底に残された漁網も調べる。中国当局はこれまでも一部の漁船を摘発しており、今回十分な証拠が得られれば、水産庁は年に 1 度開催される「日中漁業共同委員会」の場で、改めて中国側に取り締まりなどを求める方針。　（読売新聞.2015 年 7 月 19 日）

西里 勇　にしざと いさむ （ 池間漁協 ）

1933 年(昭和 8 年) 宮古島平良池間島に生まれる。81 歳(2015 年時)。

勇猛果敢な池間の漁師である。18､9 歳(1951,2 年)には尖閣諸島に出漁し、深海一本釣り、曳き縄漁に従事、久場島では不時着機で寝起きしたエピソードなどの話を紹介した。氏のサンゴ漁体験も興味に深い。1959 年森田真弘氏の発見により一大サンゴブームがもたらされるが、氏らは 1952 年にはすでに仲間屋真氏の幸丸でサンゴ漁を試みている。また森田氏が発見するや、その翌年には、氏らは伸光丸で、福太郎丸栄泉丸と一緒にサンゴ漁に乗り出した。ほどなく宮古のカツオ船はサンゴ船に切り替わり、100 隻余が宝山ソネに押しかける。氏らはいち早くサンゴ漁から撤退している。氏はサンゴブーム初動の頃の体験者である。貴重なお話を伺った。

中学卒えたら　翌日には　仲間屋真の船乗る

仲間屋真オジーが、台湾から、2 ﾄﾝ位のちょっと小さい船を、買ってきてあった。第三瑞光丸という船を買ってきて、僕はこの船に、今日は学校卒業して、明日からあの船に乗っておった。して、サメ釣り、一本釣りして、昔はクリ舟にサメの油塗っておった。あれを買っていたから、サメを釣ってきて、肝臓炊いて、脂作って、出しておった。大体サメ釣りは、今の時期(5,6 月)、また冬の時期には深海一本釣りやって、夏には、沖縄に行って、闇商売やっておった。して、あんまり船が小さいから危ないさぁねぇ、あれは 2 ﾄﾝ少ししかない。この小さな船で尖閣列島にも行った。尖閣行ったのは 17,8 歳(1950,51 年)かなぁ。向こう行って、一本釣りしたり、曳き縄したりした。一本釣りはマチとか、タマン類、潮の強い時は、曳き縄して、シマガツオ、マンビキ、サワラとかをよく釣っていた。

終戦直後の池間島の景観、湿原は干拓されて僅か島中央に残る。右上は仲間屋真。(譜久村健提供)

その前は闇商売で、沖縄にカツオ節を運んで売った。30 ｷﾛのあれだよ。ダンボール 20 幾つだったかなぁ、700 斤位しか持たなかった。エンジン場も皆カツオ節入れて、あんなにして密航しておったさぁ。糸満まで、30 時間から 32､3 時間掛かっておった。僕は乗ったら、いつもロープ縛られておった。あの船は海と一緒だったのに、もう船は相当揺れるから、海に落ちないようにして (笑い)。もう子供だから、怖いから行かんと言ったら、仲間屋真オジーが許さんもん。

オジーは僕の母方の祖父だから、僕をかわいがって、どこにでも連れて廻っていた（笑い)。だけど危なかった（笑い)。それに僕は船弱かったから。船酔いして、血まで吐いておった。あぁこれはもうダメだと思った。あとはオジーは、鍬と鎌を買ってきて、お前に

預けんといかんと（笑い）。だけど何航海もしたら、段々船酔いしなくなった。やったら、一応吐くけど、吐いたあとはあんまりきつくない。あの時物入れておったら何もしない。何もきつくなかった、船酔いは治ったよ。

幸丸(11 ﾄﾝ)で　コウビトウ・アカオ北側　サンゴ採り

オジーの船は少し大きくなって、幸丸という 11 ﾄﾝの船になった。僕が 19 才位の頃（1952 年）だったかなぁ。尖閣列島にサンゴがあるからとサンゴ採りに行った。オジーが船長しておって、長嶺金五郎さんなんかも一緒だった。行ったのは、森田真弘さんがサンゴやる前だから、サンゴブームの 7,8 年前。あの時は、網も、サンゴ採っていた時の網とは違った網だった。オジーが自分で作っていったんじゃないか、あれは、僕も小さいから分らなかったけど。屋真オジーはサンゴ分っていたさぁ。何で分かっていたかは知らん（笑い）。戦前台湾で採っていたか分らん。あれは池間で初代議員しておったから、議員屋真キューと言うていて、このオジーはもうやり手だったよ（笑い)。

大正島沖で一本釣、曳き縄している池間の漁船。
（長嶺巌.2011）

尖閣列島でやったのは、アカオ(大正島)の北東側だったと思う。アカオの向こうに、網入れたら、赤サンゴが掛かっていたよ。1 ｷﾛ位採った時もあった。して、またコウビトウ(久場島)は、いいかも知れないと、向こうに行って、コウビトウの西側だった。そこ下ろしたら、掛かってきたよ（笑い)。ものすごく真っ赤なものが揚がってきた。根っ子はこの位あった。電柱位の大きさのものが揚がってきた。僕達はサンゴはどんなものと分らんからさぁ。あんな大きいものが揚がってくるから、もう大成功だと喜んで（笑い)。よく見たら、サンゴじゃないさぁ、何と言うかねぇ、軟らかいサンゴ、こっちでインジーと言うてねぇ。赤いからアカインジーと言う。あれの大きいものが掛かってきた。これじゃ物にならないからと、外して捨てた。それで魚を釣って帰ってきた。やっぱし、コウビトウから北側に上れば、もう向こうは泥だからねぇ、東シナ海のあっちは泥の海だからどうかなぁ、島の周囲だったら、ないと言えないはず、北側にあるはず。北とか、東面とか、向こうの下がった所にはあるはず。アカオの所も、サンゴはあるかも知れない。本格的にあれやったら、東の絶壁の所はやったら採れるかも知れない。

森田真弘さん　私財擲って　サンゴ船始める

そのあと仲間屋真オジーの長男の勇栄さんがカツオ船を持つさぁ、伸光丸(32 ﾄﾝ　95 馬力)を。僕は伸光丸の機関長しておったから、ずっと捨てるまで、30 で南方に行くまで、や

っていた。伸光丸は、カツオ船やったら、もう宮古で一番ばかりだったよ。あの時は僕も、若くて元気あったさぁ、毎日酒飲んで、勇栄兄貴と喧嘩しておった（笑い)。

森田真弘さんがサンゴ船始めるさぁ。僕が 23,4 位だったかなぁ。琉球政府を辞めて、自分ではサンゴ船やるといって（笑い)。最初は、変な小さい船を、10 ㌧位の船をチャーターしてきて、何丸だったか、忘れた。あれでサンゴ探していた。もうなかなか探せん。あれは何ヵ年も失敗して、もう退職金とか、全部つぎ込んで失くなって、こっちに、池間にも 2､3 週間位おったかなぁ。で、僕も話もよく聞いていたけど、もう相当苦労していたよ。だから勇栄兄貴は相当考えてくれたはず。森田さんのお母さんは屋真オジーの妹、僕の母は姉の子、勇栄兄貴とは皆従兄弟だから、もう心配していたさぁ。森田さんはもう金がないから、金は勇栄兄貴が出してよ。僕は分る、借りてきた船の、チャーターした船の燃料費もない、もう 100 円もないから、かわいそうと言って、あの時に、伸光丸はカツオ船では一番船、もう金あったから、あれが金出して。真弘兄貴はあれだよ、もうダメだといって、チャーター船返そうとしていたんじゃないか、そしたら、那覇地区の一本釣船が、これ何かと持ってきて見せてあるわけさぁ。真弘兄貴は、これがサンゴだ！　これ揚げた宝山の場所を教えてくれと言って（笑い)。

森田真弘さん(左)と仲間勇栄さん

あともう 1 箇所あったけど、あっちは少ないか、分らんと言っていたみたい。この一本釣船は、池間にも何回も入ってきていた。台風避難かなぁ。船の名前は忘れた。

福太郎丸　サンゴ見つけ　1 年あと　伸光丸も

森田さんは自分のチャーター船出してあるさぁ。出して行って、現場見て来て、宝山で、サンゴ採れると分かったわけ。サンゴが完全にあると思ってからが、福太郎買ってあるからねぇ。宝山で採れそうだと分かって、現場見てきて、福太郎丸買ってきた。それで福太郎丸はサンゴ見つけた。あとで、森田さんが勇栄兄貴の伸光丸も出してと言うから、福太郎丸と一緒にサンゴやった。だけど僕らはすぐには行かない。1 ヵ年あと行った。福太郎丸が採って、確実に採れそうだけど、もう冬なったから行けなかったさぁ。行けないでおって、もう来年、春からは、2 隻で行った。

池間港に停泊している漁船。中央が伸光丸、右隣は宝山丸。(「沖縄池間島民俗誌」より)

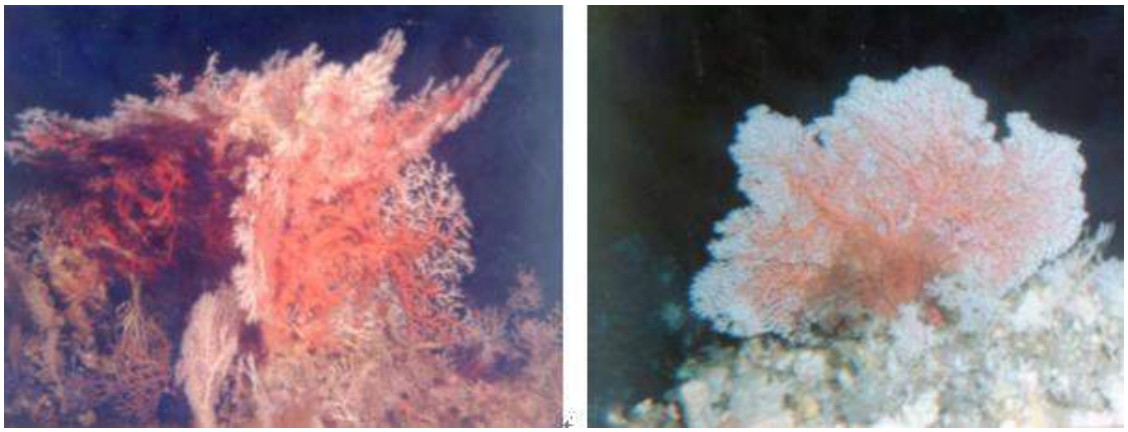
だけど伸光丸は、誰もサンゴ採ったことない。僕は屋真オジーと採ったことはあるけど、あの時は子供だったから。したら、東浜という与那国の人、福太郎丸のもと漁労長しておったはず、あれを伸光丸に連れてきて乗せておったよ。

して、やったら、東浜という僕らの漁労長は上手だった。2 隻とも相当採れた。僕らのローラー（巻揚げ機）が壊れなかったら、福太郎より採っておったはず。あの時分はギアローラーさぁねぇ、ずっとだったから。あれが壊れてから、あとは皆車のミッション（変速機)、あれを使えるようになった。して、サンゴはものすごく採れた。だけど。森田真弘兄貴はあれだよ、変な人だった。あれは金を儲けるとか、あんなのに関心あんまりない。お金には何も関係なかった、サンゴ探すのに苦労して、サンゴ見つけたら、うんと儲けようと思うが、欲はあんまりない人だった（笑い)。

2 隻目　チャーター船栄泉丸　漁労長　上手だった

福太郎は台風ですぐやられた？　宮古島台風で、そのあと、代船購うてきて、それでやったいたはず、よく憶えてない。とにかく福太郎丸は、ある程度採っていたよ。船長は中平兼太郎というオジーだった。このオジーがずっと船長して持っていた。

森田兄貴の 2 隻目のサンゴ船は栄泉丸と言ったかなぁ？　あれは買わんで、内地からチャーターして持ってきたと思ったけど、分らん。あの栄泉丸は上等な船だった。本土の人が漁労長で来ていたよ。カワグチとか言って、若かったけど、すごい人だった。この人はうまかった。上手だった。僕ら伸光丸がサンゴ採っていた後からが来たけど、やっぱり上手だったから、一番いっぱい採ってあった。また、サンゴの質もよく知っておった。赤サンゴとか、桃、スカッチとか、ボケサンゴが、あの透明なきれいなのが、一番高いとか、僕らの場合は、あのボケは百貫に 200､300 ｸﾞﾗﾑしか採れない、もう一番上等なものさぁ。だけど、この栄泉丸の漁労長、もうこの人は酒を手から離さなかった。もう酒ジョーグー（上戸）で（笑い)。大きくして、いい身体していたから。



海底でのサンゴの形状。左：1 ﾒｰﾀｰ高さの岩に生えている赤サンゴ、歪な形で、潮流の複雑さがよく分かる。右：桃サンゴ、これが一般的な形状である。　（「奄美群島漁場調査報告」より）

最初ピンクル　2回目後から　貫木　ものすごく採れた

僕らが行ったのは昭和35年だ。僕らは最初行って、採って来てから、別の船は皆ガーと行ってからがサンゴブームさぁ。その前に行ったから。あの時は尖閣には行かん。ここ宝山ソネで発見して、こっちだよというから、そこだけ行った。

サンゴはメチャクチャ揚がったよ。だから、もういじって、恰好の悪いものは、海に捨てて、また、木のハンマー叩いて割ってみたりして、あんなして遊んでおった（笑い)。

もうこれ金になるかなぁと思わん位採れた。もう大変だったよ。して、網入れてやったら、最初は上ばっかり、サンゴの枝だけが、掛かって揚がってきた。これはピンクルと言って、この鉛筆の大きさ位のサンゴ、これは金にならん。だけど 2 回目からは、貫木ばかりが採れる。1 貫(3.736 ㌔)以上の木が揚がってくるから。最初のピンクルの時に、たまには貫木が揚がってくるのもあった。やっぱし1回目曳いて、2回目3回目からがよかった。

もう後からは、全部貫木さぁ、1貫以上のものが何10本も揚がってきた。伸光丸のブリッヂに入らん位、大きなものもあった。桃サンゴだったけど、中には、きれいなスカッチの、このパイプの大きさ位のもあった。この長さ位のが、何本も揚がってきた。

ピンクル　海に捨てる　あとで袋入れて　加工材料に

あの時は、宝山は誰も行ってなかった。僕らが最初だったから、もうメチャクチャに採れた。1貫以上の木なんかは何10本と揚げておった。もうあんまりいっぱい巻揚げて　ローラー壊して帰って来た時もあった。網揚げて、サンゴ掛かっている。これ簡単には外せないから、ハンマーで叩いて落として、もう残った大きいものだけ採った。こんな小さいもの、ピンクル（サンゴ屑、破片)なんかは、捨てておった。金にならんからと、スコップで、海に捨てておった。木のハンマーで、叩いて、割って、網からサンゴ外すさぁ。

叩いて、割るから、デッキの上はいっぱい散らばっている。足が痛くて、歩けんさぁ。あの時足袋なんか履いてないから。仕事の邪魔だし、親父に怒られるから。もう溜まり次第、スコップで、どんどん海に捨てておった（笑い)。海に捨てて、そのあと網入れると、あのピンクルがまた網に掛かったりして(笑い)。

今考えると、ほんと馬鹿なことをした。ピンクルは高く売れるさぁ、それを取っておけば、金持ちになっていたけど(笑い)。もうあの時はこんな考えは何もない、僕ら漁師の頭には何もなかったよ（笑い)。

で、ピンクルは海に捨てておったら、勇栄兄貴の弟の進さん、あれがサンゴ細工を習ってきて、三洋宝石という会社建ててから、もう捨てるな、自分がもらうからとい

網外す時に叩いて割れて出るサンゴ屑、デッキいっぱいピンクル出るから、スコップで海に捨てておった。

って、あれから袋に入れることになった。そしたら、下っ端連中は、もう怒ってから、今までスコップで海に捨てておったら、楽さぁねぇ。あれをいちいち袋に入れて、4 斗袋か、6 斗袋に入れて、上げんといかん（笑い）。

あの時、サンゴ相当採れたから、大体、1 航海に、ピンクルは 6 斗袋 2 つか 3 つ位は持ってきて上げていた。三洋宝石は、僕ら捨てていたピンクルもらって、原価ないで商売始まったわけだから、相当儲けたはずよ（笑い）。

採れたサンゴ　8,9 割 桃　残り 1 割　スカッチ・ボケ・赤

宝山で採れたサンゴは、全部が桃、たまにはスカッチも入っていたけど、8 割 9 割は桃、1 割はスカッチとか、赤とか、それと一番高いボケサンゴ、あれも掛かった。あれは 100 貫採って、1 ㌔あるかなぁ、とても少ない。あのボケは、栄泉丸が一番採っておった。

僕らは知らんからあまり採らなかった。ボケは桃の値段の大体 8 倍位しておった。ボケは白っぽくて、透明で、きれいだった。今赤サンゴ高いさぁ、あの時はあれ安かった、あれをばサンゴとしない。あまり売れんから、投げて捨てておったよ。それに赤は小さいものしかない、桃みたいに大きいものは揚がってこなかった。

赤サンゴ

桃サンゴ

ボケサンゴ

僕らあの時は大変だった。サンゴ網はモズク網みたいな感じで、ただまとめておいて、ただ長くなしている。で、石に全部リング付けて、石 1 つには大体 4 つから 5 つ位網を付けている。で、サンゴ掛かると、ローラー（巻き揚げ機）で揚げるさぁ。あれは 1 回にローラーが弱かったら、網 2 つ位しかやらんさぁ。3 つ 4 つ網揚げたら、揚がらないさぁ。ローラーが壊れる。一度はサンゴいっぱい掛かったんもんだから、どんどん揚げてやったら、壊れた。もうあの時大変だった。どうにもならないからすぐ港に帰ってきた。

あとで、車のミッション（変速器機）使ってからは、網 4 つ位は 1 回に揚げていたけどねぇ。とにかくあの時分は、サンゴは相当採れたよ（笑い）。

尖閣　海サボテン？　多く掛かる　宝山 少ない

(右下の写真を指して)　これきれいだ。これ、こっちではフーインジーと言うけど、ちゃんとした名前は知らん。身を剥いて芯は黒だよ。これは真っ黒になる。これサンゴと一緒に掛かってくる。宝山で網入れると、このフーインジーとか、海サボテン、海マーチ(松)とか、あんなのも掛かかってくる。サンゴと同じ 100 ﾒｰﾀｰから 200 ﾒｰﾀｰ深さにあるから。

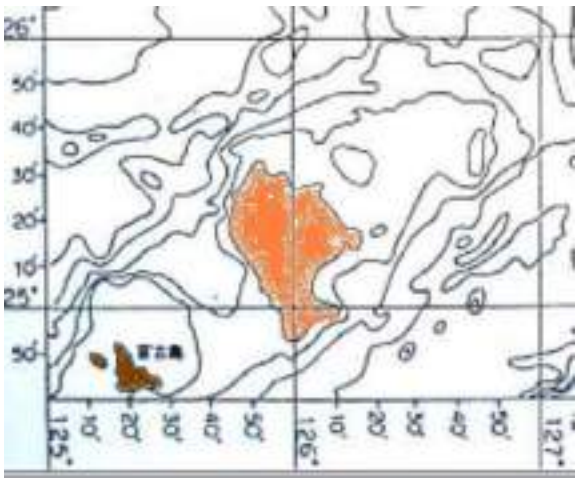
深海 100～200 ﾒｰﾀｰに生えているフーインジー。
海サボテンの 1 種か？　サンゴ網に掛かってくる。

だけど宝山は、サンゴも多いから、こんなものは少ない。気にならない位の量さぁ。別の場所行ったら多く掛かってくる所もある。尖閣列島は海サボテンはすごい。あっちは危ないよ。アカオの北側だったかなぁ。あそこでやった時、赤サンゴは少し採れたが、この海サボテンもいっぱい掛かってきて、邪魔だったよ。また、コウビトウの西でやったら、アカインジーと言うけど、根っ子はこの位あった。もう電柱位の太さよ。これが赤サンゴみたいにして揚がってきた（笑い)。驚いたさぁ、だけどあれ物にならないから捨ててきた。これも同じさぁ、このフーインジーは、皮を剥いだら真っ黒して、きれいだから、床によく飾られている。これはまた蝋とか、線香とかやって、形はきれいに自分らで作れる。焼いて、少し暖めたら、ぐっと曲がるから、自分で、あんなにやってきれいな形できる。あのアカインジーはできない。あれは 1 週間なったら失くなるよ。軟らかいから、ボロボロになって崩れる。

重宝ソネ　ものすごく、サンゴ採れた

（海図を指しながら）こっちは宝山、これ東大九、こっちは西大九ねぇ、宝山は相当広いよ。宮古の 4､5 倍の広さあるかなぁ。

こっちとこっちでやって、で、宝山の一番東側の、この重宝の所、ここでもサンゴ採ったよ。この海図でみたらあんまり引っ込んでないけど、この引っ込んだ側のここに、離れたリーフある。ここだ。重宝のこの引っ込みがサンゴヤー(家)だった。浅瀬はこっちにある。ここに沖縄の行く線から東に行って、これから絶壁して、ここは深いさぁ。ここに、こういう感じの瀬がある。



宝山ソネは宮古島数倍の面積、西側重宝でもよく採った

ここは皆サンゴよ。（地図を描いて示しながら）こんな感じになっているさぁ。ここにもあった。サンゴはこんなにあった。もう全部サンゴだったから、メチャクチャに揚がった。

また重宝のソネからここは傾斜している。この所にもサンゴはあったけど、そこは死にサンゴが多かった。虫サンゴ、枯サンゴと言うさぁ。あれはものすごく大きい。もう幹の太さが大きいのが多いさぁ。それに魚がものすごかった。そこ行ったら、サンゴ網下ろして、また魚を釣っていた（笑い）。ここの深さは 220 ﾒｰﾀｰ位あったんじゃないかなぁ。10 ｷﾛ 20 ｷﾛのアーラ(ハタ類)とか、またでっかいマチが釣れた。こっちでメンタイと言うけど、アカマチ(ハマダイ)とか、シチューマチ(アオダイ)とか、あんなのをいっぱい釣っていたから、福太郎丸に釣った魚をくれていた。美味しい魚食べられるからと喜んでいた。

だから、栄泉丸が来たら、僕ら栄泉にも、魚釣って上げておったよ。

サンゴ生える石　白っぽくザラザラ　あとで黒くなる？

（サンゴは火山脈がある所に多いのでは？との質問に対して）サンゴが生えている石、焼け石みたいに黒っぽい。黒いけど、皆が皆黒くない。白いのもある。あれは火山の焼け石ではないはず。サンゴは火山が通っている所に多いか、どうかは知らん。あの黒っぽい石は、あれは元々は黒くない。下の方は､ザラザラして､軟らかいさぁ。普通のこの辺にある石グー（軟質の隆起サンゴ礁）みたい。置いておったら、色が少し濃くなってくる。だから、サンゴが生えたら、あんなに黒くなったはず。あれはどんなになっているか、分らん。採る時は、そのままピタッと採れる時もあるし、引っ付いている所から少し残して採れる時もある。サンゴが生えている所は、根っ子がサンゴになって全部張っているでしょう。あれをやったら、すぐこのままで、下の根っ子ごと全部ポンと採れる時がある。

サンゴ生えているこの石は黒っぽくない。薄褐色堆積岩？

岩だったら、それができない。石グーみたいな軟らかいかったらできる。

今言ったように、火山脈が通っている所に、サンゴがあって採れるとしたら、あの宝山、重宝にも、あとからは大九にも行った。行ったら、いっぱい採れた。採れたわけだから、あそこのソネの下には、火山脈があるのかなぁ。

サンゴ　軟らかく　弾力ある　揚げたら硬化

サンゴはあれだよ。海から揚がって、すぐしたら、何か分らん、枝掴まえてポンと折れる。だけど置いておったら硬くなるさぁ、あれは。1 時間あったら、もう硬くなるよ。あと

は折れない、強いよ、それに海から揚げた時期、ヌルヌルした外が皮付いている。この辺の浅い所にあるサンゴと一緒さぁ。あれも皆ヌルヌルしているよ。触ったらベタベタしておるさぁ。僕らの場合、網揚げて、木のハンマーで叩いて落として、サンゴを網から外していくさぁ、あの時、手袋なんかしてない、もう素手。手袋やる位の、あんな金はなかった。だから採って、手で掴んだら、ヌルヌルして、軟らかくもあったわけ。弾力性もあるから、落ちていかないじゃないかなぁ、もう、枝でも箸の大きさ位のものだったら、もう引っ掛かって、全然落ちない時もあるからねぇ、あれ強い、して、軟らかい。だけど置いておったら硬くなるさぁ、1時間あったら、もう硬くなる。あとはあんまり折れない、相当強いよ。

（サンゴの写真を指して、右下に掲載）これは見事な桃サンゴだ。枝ぶりもきれい。

海の底に生えている形で揚がってきている。あんまり枝も折れてない、きれいさぁ。

宮古の海で採ったというが誰が採ったのかなぁ。僕ら採った時もこんな形で揚がってくることあった。片一方の枝にだけ網が引っ掛かれば、落ちていかないから、そのまま揚げることできるさぁ。片方の 1 つで揚げれば、網は他の枝には触らん。触らんから、枝も折れんよ。地面に生えている形、そのままの形で、きれいに揚ってくる。

沖縄近海で採取したサンゴ。見事な枝振りの貫木が沢山揚がった。

球サンゴ椿事　バレーボール大　割って　中身は？

サンゴは、大きいものもあれば、またきれいな曲がったもの、また変な形のものもある。おかしいよ。一度は、枝も何もない、形はもう球、真ん丸くして、バレーボール位の大きさで、ただ真ん中位からポッンと茎が 1 つ、箸位の小さい茎が 1 つ出ているわけよ。これの下の方に根っ子があったはず。これは折れてないさぁ。この茎に網が引っ掛かって落ちないで、揚がってきたわけよ。持ったら、相当重い、重いから、この茎では球は持てないよ。だから、ボールみたいに転がったままで、このサンゴの球は大きくなったんじやないか。で、網に掛かってきたよ。揚げて見たら、これおかしい。丸いサンゴ球前にして、これいったい何かなぁ（笑い)。この芯の中に、何かあるはずだ。石をただ包んでいる、いやそうじやないと言ったりして、最後はもう割ってみないと分らんとなったわけよ（笑い)。

もう重いから、アンカーの後ろの棒つつく所がある、置いておって割ったよ。硬いから

簡単に割れんわけ。大きなハンマーで割ったみたら、真ん中には、大体 1 ｾﾝﾁの石じゃない、土と一緒に、軟らかい、土を粉にしたみたいな砂、汚れはなかった、これだけしかない。残りは皆これ包んでいるサンゴだった（笑い）。

そしたら森田真弘さんが来たよ、何しているかと。こういうのが揚がってきたから割ってみたら、皆サンゴだったと言ったら、お前、あんなの割るバカがおるかぁ（笑い）。

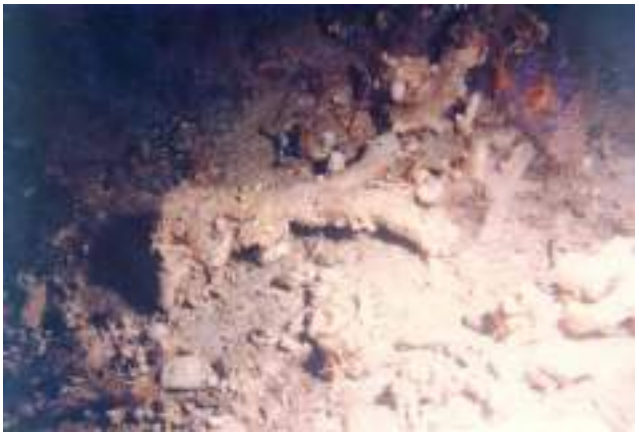
何で、分からんで、これ中がどうなっているか見ようと思って割った（笑い）。採ってきたサンゴ全部と、この丸サンゴと比べたら、こっちが値段高かったのに、何でこんなことやるか、このバカタレと叱られたよ（笑い）。割ったサンゴ、あれどこ置いたかと言うから、あれは金にならない、ピンクルに入れて捨てていたさぁ。

真弘兄貴は、拾ってきて、コケシの顔作ろうと言うて持って帰った。あの割ったサンゴで作ったはずよ。片一方しか割らんから、残りの大きい所でやったはず。

あれだよ。コケシの顔作って、これに合うような胴体は、大きい死にサンゴ、枯れサンゴ使う。あれは大きいものが揚がってくるから。

死にサンゴ　ものすごくでかい　20、30 ｾﾝﾁ　貫木も

死にサンゴ、あれ虫食いサンゴといって、もう虫ばかり入っているみたいな感じ。木が虫にやられているみたいにして、死んでいるもの全部入っている。見たらすぐ分かる。筋がこうやって入っている。あれは虫にも色々あるから、長らくなったのは使いものならないのもあるけど、大方は使えるのが多い。外だけ虫入って、芯は上等のものもある。あれは大きいものだと、相当大きい奴があるから。



倒壊している死にサンゴ（虫食いサンゴ）。老衰したのか？電柱状の太いのもある。(「奄美群島漁場調査報告」より）

あれもあんまり大きくなって死んでいる。サンゴの老衰みたいなもの。だから、ものすごく大きい貫木よ。幹の太さがこんな大きい。電信柱みたいに大きい。20,30 ｾﾝﾁもあった。この位大きくあって、先が死んで、根っ子がやっぱり死んでいるから、少し掛かるところがあれば、掛かって揚がってくるさぁ。

僕らは採ってはいたよ。あんなのを採って捨てたりしておったけど。で、この死にサンゴは、サンゴ加工する人なんか上手だった。あんなの上手いやり方しておった。ちゃんといいサンゴ削って、粉にして、虫に食われた穴に入れて、ピタッとしたら、もう生きたサンゴみたいな感じして、売っていたさぁ。あんなして売っているのがいっぱいあったよ（笑い）。

馬車で　家に運ぶ　子供達に折って　上げていた

あの時に、世の中をよく分る人は、サンゴで儲かってあるさぁ（笑い）。僕らは、こんなに採れるから金になるわけないと言う位考えていたから。

ピンクルも、あれだよ、あれは今は高いさぁ、あの時はデッキにいっぱい捨てて、硬いから、スコップで取って、海に捨てておった。あとで袋に入れて持ってきた。子供はもらえと言っても、もらわなかった（笑い）。浜に捨てられているあのサンゴ（浅瀬のサンゴ）とみたいに考えていたんじゃないか。して、網入れたら、サンゴ掛かるさぁ、１貫の木なんかは、もう掛かったらねぇ、ひと網に 2,3 本掛かってあるから、あれを何 10 本と揚げたら、もうダンブルのもういっぱい、入りきらん。こんなに採れるさぁ。考えてもおかしい。あんなの金になるわけはないと思っていたから、僕はいい考えなかった。

車のない時代。港から家までサンゴ運搬は馬車を利用した。

だから勇栄兄貴が、1 貫以上の木は、記念として、責任者に上げると決めてあったけど。もう金にもならないから、自分の分はもらいもしない、取りにもいかなかった。あれ誰かがもらって売って食ったか知れん。誰が食ったかなぁ（笑い）。

伸光丸は池間に帰ってきたら、採ったサンゴ、あれをダンブルから出して、家の倉庫に入れておったから、勇栄兄貴の家の中に入れておった。あの時は港から家までは、荷馬車で運んでいたさぁ。あれにいっぱい積めない、幾つも枝がこうあるから。もう何回も運んでいたねぇ。そしたら、僕らが運んでいる馬車を見て、子供達がワァワァして集まる。

サンゴきれいさぁ、サンゴ指して、これ欲しいからくれ、くれと言うよ、言ったら、はいよと言って、枝折って、ポンと投げて上げておった（笑い）。

あの時は何とも思わなかった。子供達がほしいと言えば、すぐ折って上げたよ。

あんなことしたのは僕１人じゃない、皆サンゴを上げておったから（笑い）。

１航海で　2000ﾄﾞﾙもらって　家造った

サンゴは段々儲かると分かるさぁ。そしたら、もう皆サンゴブームになる。あの時は池間はビールで手足洗っておった（笑い）。もう大変だった。金はあの時は恐ろしい位だったからねぇ。もうあの時メッチクチャだった。僕はサンゴブームの前に、サンゴ船辞めているから、あんまり儲けていないさぁ（笑い）。

だけど、僕は１昼夜の金で、自分の家を造ったよ（笑い）。僕は家内が病気で船主に 400 ﾄﾞﾙ位負債があった。で、サンゴを採ってねぇ、それで借金払って、今の家もそのまま造った。１昼夜分の収入で造った。僕は責任者だったから１人半取っていた。あの時は 2 千ﾄﾞﾙ

位、現金でもらったはずよ。僕の家は現金で造ったもん。

すぐ、あの今日行って、朝よ、出港して、行って、採って、午後 2 時頃だったかなぁ。帰って来たのは。勇栄兄貴が、サンゴ採れたなら、普通は池間港だが、この時は平良港に入れと言うから、入ったよ。

銀行と相談して、銀行の倉庫に入れんといかんから、その時間に入って来いと言うから、銀行の倉庫に入れた。そしたら 3 日か 4 日位には、勇栄兄貴の家で、皆に配当して、現金を渡してあった。あの時風呂敷に包んで、持ってきていたから。採ってきたサンゴを、銀行預けて、銀行から金借りていたんじゃないかなぁ。あんな大金が兄貴にあるわけないし。僕は 2 千ﾄﾞﾙ余る金を、現金をもらった。それで借金も返して、自分の今の家も造った。サンゴで儲けて造った家はいっぱいあるよ。池間には（笑い）。

1 航海で 2000 ドルもらい、サンゴの儲けで造った我が家。赤瓦家の快適な住まいで、45 年余経ても今尚現役で活躍。

1 貫 25ﾄﾞﾙに下がる　カツオ船に転向　サンゴブーム前に

伸光丸の場合は、最初の時期にやったから、サンゴブームで皆が出るまでは採っておったから、もうデタラメに儲かったさぁ。あの時 1 貫何 100ﾄﾞﾙだったかなぁ、もう忘れたが、あの時相当儲かったょ。サンゴやっていたのは、森田真弘さんのエイシン丸と勇栄兄貴の伸光丸の 2 隻だったんじゃないか、もっとやっていたかなぁ、やっていたとしても 3, 4 隻位。サンゴ採れると分かったもんだから 3,40 隻にも増えた。4,50 隻はいたかも知れん。相場も下がって 1 貫 25ﾄﾞﾙになった。これから上には上がらん、1 航海に人間 10 名乗っていたら、あれだけの船だょ。皆にサンゴくれているから、皆が持っているから、値段は長らくそのまま。サンゴいっぱい採っても、1 貫 25ﾄﾞﾙしかない。それに売れるかどうか分からん位になっていった。皆がカツオ釣るというから、僕らはサンゴ辞めてカツオ釣った。

辞めたあとからが、サンゴ船はいっぱいになっている。もう皆サンゴやると言って、カツオ船もサンゴやって、船も 80 隻も、90 隻も増えたさぁ。サンゴは危ないよ、中には、儲けた人とも、損した人ともいるはずだけど。

2 人が手にしているのは採ってきたばかりの桃サンゴか。
（「沖縄池間島民俗誌」より）

僕はそのあと 2,3 年したら、カツオ船で南方に行った。ボルネオ、スマトラ、ソロモンに行った。南方に 10 年余りもいたが、僕が行った 4, 5 年あと位かなぁ、サンゴはもうダメになっていた。サンゴやって失敗した人も相当いたよ。ほんとあれは危ない仕事だ。

僕はあの時、サンゴ辞めて、カツオ獲ってよかったと思っている。

（了）

サンゴブームの頃は那覇泊港は多くのサンゴ船で賑わった。
帰港してもロープ、網の手入れに大忙し。（豊島貞夫.1960）

※参考資料１　―尖閣諸島におけるサンゴ採取高

尖閣諸島におけるサンゴ採取については琉球政府の「さんご漁業生産報告」の一部が沖縄県公文書館に保管されている。この報告から採取状況が大凡推測できる。これを以下に紹介する。

サンゴ採取高　　1967 年（昭和 42 年）5 月以前

昭 41 年 6 月	宮古島平良市	第三新徳丸	小橋川長助	赤尾島	17.0 ㌔
10 月	宮古島平良市	第三新徳丸	小橋川長助	赤尾島	4.0 ㌔
昭 42 年 5 月	宮古島平良市	第三新徳丸	小橋川長助	赤尾島他	1.8 ㌔
5月	宮古島平良市	第八宝央丸	慶田清稀	赤尾島	50.8 ㌔
5 月	宮古島平良市	第十八住吉丸	前西原豊	赤尾島	7.5 ㌔

（「1966、67 年・さんご漁業生産報告」琉球政府農林局）より

1967 年 6 月、魚釣島沖合で、新にサンゴ漁場が発見された。「琉球サンゴ漁業組合（柴田重利組合長）所属の方興丸（28 ㌧）は、・・魚釣島北方 12 マイルから 16 マイル沖合いでサンゴの漁場を発見、同漁場から桃サンゴ 35 ㌔余を採取した・・また同じ組合所属の福島丸（28 ㌧）も同じ場所から桃サンゴ 20 ㌔を採取した。まだ資源調査をしたことがないのでどのくらいの量があるかわからないが、かなり有望だと柴田組合長はいい、サンゴ漁船はこの沖合で操業するよう呼びかけている。（1967.06/08・琉球新報・「新サンゴ漁場を発見、柴田組合長“かなり有望”」）

これを契機に、尖閣諸島沖合でサンゴ漁が急増している。

サンゴ採取高　　1967 年（昭和 42 年）5 月以前

6 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	赤尾島	7.5 ㌔
8 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	赤尾島	18.7 ㌔
6 月	宮古島平良市	振揚丸	伊波幸夫	魚釣鳥沖	36.1 ㌔
7 月	宮古島平良市	振揚丸	伊波幸夫	魚釣沖	58.0 ㌔
6 月	宮古島伊良部	昇得丸	池間幸雄	黄尾崎	20.0 ㌔
7 月	宮古島伊良部	昇得丸	池間幸雄	黄尾赤尾	25.0 ㌔
10 月	宮古島伊良部	昇得丸	池間幸雄	黄尾赤尾	10.0 ㌔
6 月	宮古島平良市	第八光徳丸	上地晃晴	赤尾島	7.5 ㌔
7 月	宮古島平良市	第八光徳丸	上地晃晴	赤尾	―
7 月	宮古島伊良部	昇山丸	長崎キヨ	黄尾赤尾	5.0 ㌔
8 月	宮古島伊良部	昇山丸	長崎キヨ	黄尾赤尾	10.0 ㌔
7 月	宮古島平良市	瑞光丸	伊良部平盛	赤尾島	10.7 ㌔

7 月	宮古島平良市	珊金丸	砂川鎌吉	尖閣列島他	13.0 ㌔
8 月	宮古島平良市	珊金丸	砂川鎌吉	尖閣列島他	5.5 ㌔
10 月	宮古島平良市	珊金丸	砂川鎌吉	尖閣列島他	3.2 ㌔
7 月	宮古島平良市	第三盛福丸	久貝藤一	魚釣島	5.0 ㌔
8 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	赤尾島	20.0 ㌔
8 月	宮古島平良市	第八幸集丸	内間武雄	尖閣列島	5.5 ㌔

（「1966,67 年度・さんご漁業生産報告」琉球政府農林局）より

サンゴ採取高　　1970 年（昭和 45 年）5 月~10 月

6 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	13.7 ㌔
7 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	43.5 ㌔
8 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	23.4 ㌔
10 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	11.2 ㌔
6 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	尖閣列島	3.7 ㌔
7 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	尖閣列島	18.7 ㌔
8 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	尖閣列島	15.0 ㌔
9 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	尖閣列島	11.2 ㌔
10 月	宮古島平良市	第 18 住吉丸	前西原豊	尖閣列島	15.0 ㌔
5 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	11.0 ㌔
6 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	18.0 ㌔
7 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	11.0 ㌔
8 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	15.0 ㌔
9 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	22.0 ㌔
10 月	那覇市二中前	第 2 福泉丸	大城清一	魚釣島沖	8.0 ㌔

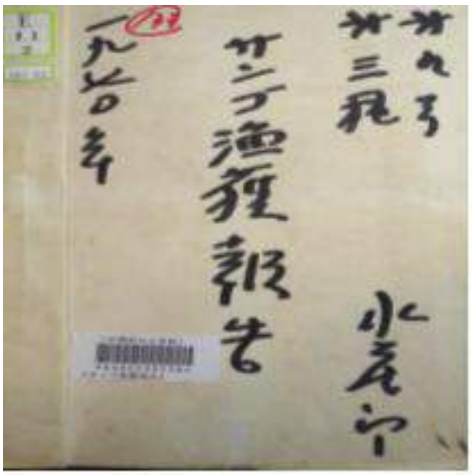
（「1970 年度・さんご漁業生産報告」琉球政府農林局）より

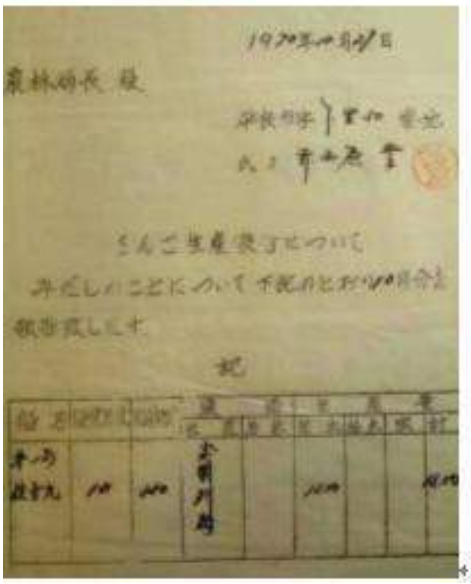
サンゴ採取高　　1971 年（昭和 46 年）3 月~10 月

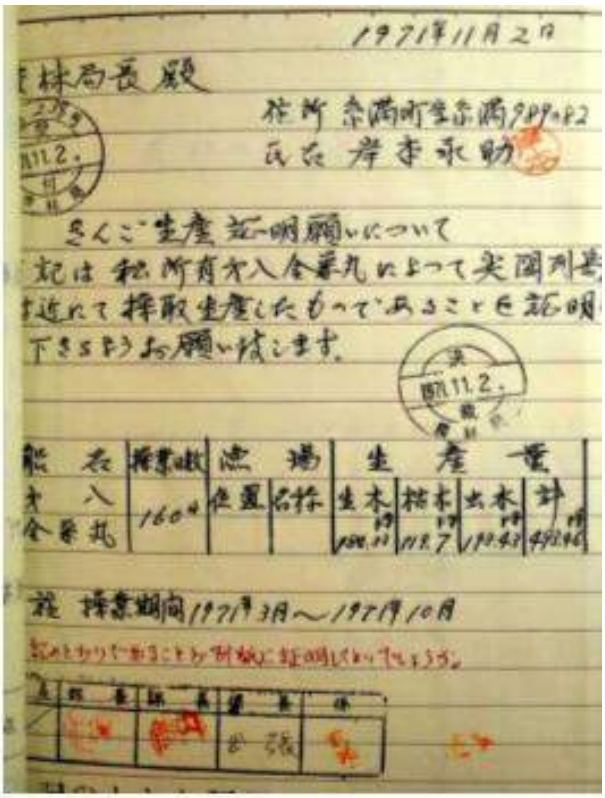
3 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	48.7 ㌔
4 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	53.2 ㌔
5 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	21.7 ㌔
6 月	宮古島平良市	第八宝興丸	慶田清稀	尖閣列島	91.1 ㌔
7 月	那覇市壷屋	日吉丸	小渡カマド	黄尾島	153 ㌔
8 月	那覇市壷屋	日吉丸	小渡カマド	黄尾島	41.5 ㌔

3 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	28.4 ㌔
4 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	34.6 ㌔
5 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	42.6 ㌔
6 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	42.8 ㌔
7 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	62.1 ㌔
8 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	72.4 ㌔
9 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	91.6 ㌔
10 月	糸満町字糸満	第八金栄丸	岸本永助	尖閣付近	118 ㌔

(「1971 年度・さんご漁業生産報告」琉球政府農林局)より







左上：1970 年度さんご漁業生産報告綴り、左：報告の一部、前西原豊氏が 10 月分について、第 18 住吉丸、操業日数 10 日間、尖閣列島で生木 15.00 ㌔採取と報告。右：農林局長宛、サンゴ生産証明願い。操業期間 1971 年 3 月から 10 月、生木 180.33 ㌔、枯木 119.7 ㌔、虫木 193.43 ㌔、計 493.46 ㌔、尖閣列島付近にて採取生産したものであることを証明下さるようお願い致すとしている。

なお、1976 年(昭和 51 年)の尖閣諸島海域へ出漁状況表(「尖閣諸島海域の漁場利用について」沖縄県 178.11)には宮古漁協の所属船 2 隻が操業、水揚げ 350 ㌔が報告されている。

※参考資料２　―わが国における産地別サンゴ漁業の状況

サンゴ船の隻数と採取量　（昭和 54～56 年度）

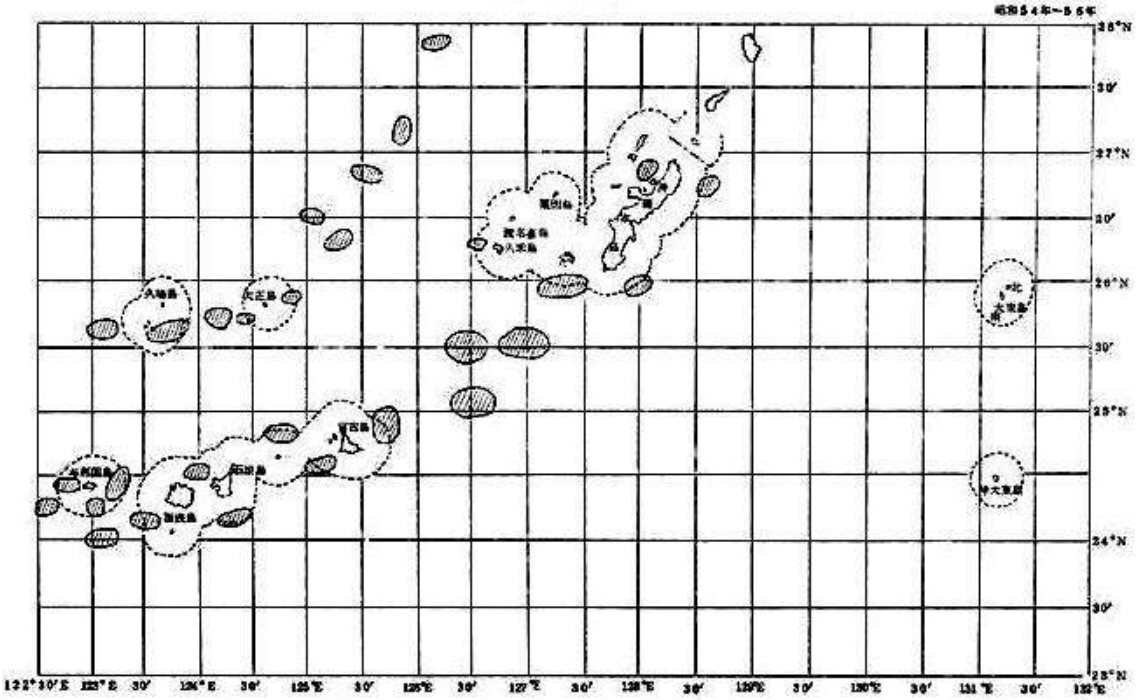
知事認可隻数(稼動隻数)

	東京都	高知県	長崎県	鹿児島県	沖縄県
54 年	17（6） 1074 キロ	581（581） 5400 キロ	30（30） 856 キロ	11（9） 770 キロ	2（1） 210 キロ
55 年	19（10） 1273 キロ	583（583） 4220 キロ	30（22） 331 キロ	8（7） 821 キロ	3（2） 191 キロ
56 年	19（11） 1789 キロ	473（473） 5544 キロ	30（18） 154 キロ	5（5） 687 キロ	2（1） 47 キロ
56 年 漁船規 模別数	0～20 トン 9 隻 50～100 トン 5 隻 100 トン～　5 隻	3 トン未満　62 隻 3～5 トン　416 隻 5～10 トン　60 隻 10～25 トン 40 隻	5 トン未満 12 隻 5～10 トン 16 隻 10～20 トン 2 隻	5 トン未満 2 隻 5～10 トン 2 隻 15~20 トン 1 隻	19 トン 1 隻

なお、東京都については 56 年度を見ると船籍内訳は東京 11 隻、静岡 2 隻、高知 6 隻。

（「わが国さんご漁業の現況（昭和 57 年 5 月）水産庁振興部沿岸課」より）

沖縄県さんご漁場図　（昭和 54 年～56 年）



（同上「わが国さんご漁業の現況（昭和 57 年 5 月）」より）

※「尖閣研究　尖閣諸島海域の漁業に関する調査報告
—沖縄県漁業関係者に対する聞き取り調査ー　2014 年」（2015 年刊）
「4 章 サンゴ漁　4－1 サンゴ」より転載しました。